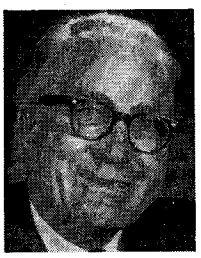
聖徒の道
1972年7月20日発行（毎月1回20日発行）第16巻 第7号
昭和42年12月18日第三種郵便物認可

聖徒の道 1972 7

心の糧



十二使徒評議員会補助

ウィリアム・H・ベネット

今日，世界は多くの問題に取り巻かれている。人がこれらの問題を独力で解決しようとする時，しばしば新しい問題が生じ，その先には，混乱，矛盾，論争が横たわることに気づくのである。ついには，人は戦争に頼って，それを解決しようとする。しかしながら，戦争は困難を解決するものではない。重大な戦いは戦場において行なわれるのではない。人々が立ち向かう困難に直面し，それから脱出しようとして，自由意志を行使し，選択をし，問題に打ち勝とうとつとめる時，あらゆる男女の心の中で行なわれるのである。悪の軍勢と正義の軍勢とが，共に人の決意を左右しようとするために，すべての人の心の中に葛藤が生ずるのである。もし正義の軍勢が完全な勝利を得れば，地上に愛と調和と平和とがもたらされるであろう。しかし悪の軍勢が支配するならば，戦争と破壊へと導くものがもたらされるであろう。

主イエス・キリストの福音は，これら心の中の争いを解決し，心の内外を問わず平和をもたらしたもう。主の福音は，まことに今日世界で最も価値があり，かつ必要なメッセージである。

それはかくも多く起きている人間の利己心と我欲から生じた問題に対する答えなのである。主の福音は我らに，破壊よりも建設を与えられるだけではなく，むしろ己れをむなしくして他人を助けることを教えたもうている。

——もくじ——

女性であることを誇りにしなさい……ハロルド・B・リー… 289
家庭からはじめなさい……ボイド・K・パッカー… 298
家庭の夕べ……ベル・S・スパフォード… 304
「獄にいたときに尋ねてくれた」……ビクター・L・ブラウン… 307
イエロー・リーフの贈り物……メアリー・ジョイス・カップス… 309
アルマ……マーベル・ジョーンズ・ガボット… 312
ふたりの男……メアリー・プラット・パリッシュ… 314
マカロニで作りましょう……マーベル・ジョーンズ・ガボット… 316
最も大切なこと……A・セオドア・タトル… 317
主の予言者……アーサー・R・バセット… 320
「聖徒の道」の目的…… 328
愛するジョーンへ…… 329
十戒……バーナード・P・ブロックバンク… 330
公園での朝食……ウェンデル・J・アシュトン… 333
ローカルニュース…… 334

7月のこよみ

24日　1847年　開拓者記念日
ブリガム・ヤング大管長と他の聖徒たちソルトレークに到着す。

今月の表紙

今月号より末日の10人の予言者に関する記事を連載する。写真は左から右へ，(上)：ジョセフ・F・スミス，デビド・O・マッケイ，ジョセフ・スミス・，ジョセフ・フィールディング・スミス，(中)：ジョージ・アルバート・スミス，ロレンゾ・スノー，(下)：ヒーバー・J・グラント，ウィルフォード・ウッドラフ，ジョン・テイラー，ブリガム・ヤングの各予言者たちである。

聖徒の道
1972年6月20日発行
発行人　マービン・S・ハーディング
発行所　東京都港区南麻布5-8-10
末日聖徒イエス・キリスト教会
電話(442)7459
印刷所　太陽印刷工業株式会社
定　価　100円
予　約　一年間 1,000円
外国4ドル50セント

女性であることを誇りにしなさい

ハロルド・B・リー第一副管長

マルチン・ルター[1]は，女性の地位に関して意味深い声明を発し，こう書いている。「イヴがアダムから造られたとき，アダムは聖霊に満たされ，彼女に数ある名の中で，最も神聖な，最も栄誉ある名を与えた。彼は彼女をイヴと呼んだ。すなわちすべてのものの母。妻とは呼ばず，ただ母と――すべての生ある被造物の母と呼んだのである。これこそ女性の他の何よりも尊い，名誉ある称号ではないか。」

末日聖徒の姉妹の真の模範となるよう，あなたを造った御方のように思索し，信じ，生活し，装い自分自身を治め，神が望んでおられる女性になりなさい。あなたの御主人をだれよりも敬いなさい。

絵や映画や歌の中で性の象徴でしかない女性の俗悪な描写や表現を目にし耳にすれば，真に貞淑な女性なら義憤が湧き上がるに違いない。

あなた方の中の多くはカリフォルニアの女性，ジル・ジャクソン・ミラーの，世の中での女性の立場に関する，当を得た弁明を読んだことがあると思う。彼女は「男性への公開状」と題して作品の中でこう書いている。

『私は女。

私はあなたの妻であり，恋人であり，母親であり，娘であり，姉妹，そしてあなたの友達。

あなたの力が必要です。

その力さえあれば，この世に優しさと分別と平和と美しさと，そして愛を造って差し上げましょう。でもそれをするのがだんだんむずかしくなって来ました。

人は映画やテレビやラジオで女性の本来の姿を無視して，繰り返し繰り返しただ性の象徴として扱いました。

それは女性の自尊心を傷つけ，威厳を損じ，美と感動と愛――子供への愛，夫への愛，神と国への愛という本来男性が女性に望むものを幕の向こうに隠してしまいました。

女性が本来の姿を回復し，その造られた目的を果たすようになるためには，あなたの力が必要です。

男性の皆さん，あなたはその方法を知っているのです。』

思うにこの引用は今日の女性の本心から出た弁明である。今日の極端な流行を追うことは，創造者の神聖な計画である現在の基盤から，人類を切り離そうとする者の行動にはくをつけるようなものである。ある女性は自然な装いに満足できず勝手な判断をするようになり，肌を露出し，下品な装いをし，異性の注意をひくアイドルになっている。天がこのような女性を救いたもうように。女が男のような恰好をするようになると性の倒錯に拍車をかけることになり男が好んで女のようになり，女が好んで男のようになる。

神から与えられた体を真に守り装う女性は，人を魅了し，また夫の愛を勝ち得る人は本当の女らしさ，自然さ，清さ，美しさに称賛を送るのである。姉妹の皆さんあなた方に言うことは，神が望まれる誠実な女性になりなさいということに尽きる。

私は今朝我々の尊敬する指導者である兄弟たちと共に歓談した。そこで1人の兄弟が最近子供が授かるように祝福してほしいという姉妹の依頼を何件も受けたことについて語った。その姉妹たちは結婚当初は子供を持とうとしなかっ

た。しかし望んでも得られない今になってほしいと願っている。

その話を聞いて，別の兄弟がいみじくもこう語ってくれた。「その話で昔のことを思い出しました。私たちは非常に若い時に結婚し，子供を持ちました。そのうち5人までは妻が28歳までに生んだ子供です。その後あることがあって，子供ができなくなりました。」また彼は続けて，「私が学校を終えるまで，家庭を持つことを自分の判断で引き延ばしていたとしたら，私たちは1人も子供を持てなかったと思います。」

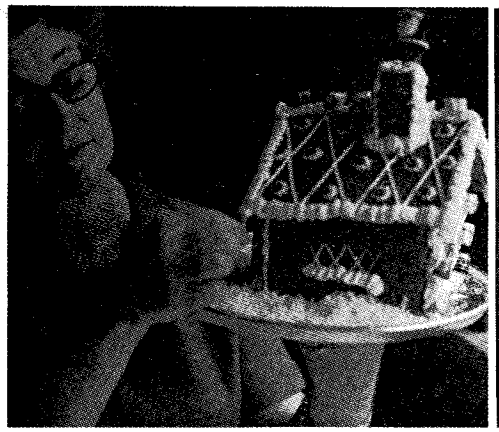
主に従って結婚生活に入り，地に満ちるようにという聖なる戒めを受けた人について考える時，その人が自分の考えで戒めを回避し，後になって準備ができたと思った時に望んでも主が次のようにお考えになるとは思えない。「なぜ地上に生を受けたのかを悟り，少しばかり自責の念を持てば，その時でもその本来の姿に立ち帰ることができる」と。

妙なことだが，今日の世界では一方では産児制限をして人の命を縮め，また一方では長生きの方法が考えられている。このことについて考えたことがあるだろうか。兄弟姉妹，私たちは一体どのあたりに位置しているだろうか。何か不都合なことがあると，人間は勝手に自然をいじくりまわすものである。しかし，女性は聖なる自然の規律に従って行動しなければならない。妻として夫の真の伴侶，協力者たることは，女性の大きな責任の1つである。

次のような深い真理を語った言葉を聞いたことがある。「だれも妻を持たずに敬虔な生活を送ることも，高潔な死を得ることもできない。」神は言われた。「人がひとりでいるのは良くない。彼のために，ふさわしい助け手を造ろう。」（創世2：18）また使徒パウロはそのことについてさらに広い意味のことを語り，こう言明している。「ただ，主にあっては，男なしには女はないし，女なしには男はない。」（Ⅰコリント11：11）またパウロは，新しくかつ永遠の聖約を受け今も永世にも聖なる結婚生活を送る男女だけが，日の栄の王国で最高の光栄にあずかるという偉大な真理を教えている。しかしまた現世でも夫にとっては妻が，妻にとっては夫が必要なことも力強く述べているのである。

先頃亡くなった大管長ジョージ・アルバート・スミス[2]は，夫婦の関係をこう定義づけている。「この関係については象徴的な描写がなされている。神は女を男の頭の骨を採って造ったとは言われなかった。女は男を治める者ではないからである。また足の骨から造ったとも言われなかった。男の足の下に踏みにじられる者でもないからである。女は男の傍にあって，伴侶となり，分身となり，協力者となって常に共に暮らすよう，男のあばら骨をとって造られたのである。」

夫は家長であって，妻は夫の言葉に従うものだという間違ったことを言う男性がいるのは残念なことである。ブリガム・ヤングの既婚の男性に関する教えに次のようなものがある。「夫と父親に，神のみこころへの服従を学ばせよう。そして妻と子供たちに彼の教えと模範によって自制心という教訓を学ばせよう。」（「ブリガム・



ヤング説教集」ＰＰ.306—307)

しかし別の所では，妻は夫が神の律法に従うならば，夫の律法に従うようにと言われている。だれも主の戒めに不従順な夫に従うことはない。ある結婚生活のベテランが言ったことだが，良き妻はどんなわかりきったことでも，いつも夫の意見を求め，夫をたてるということである。姉妹の皆さん，皆さんが御自分の結婚生活の中で賢明な同伴者になられるよう祈る。良き妻は，どんなわかりきったことでも，いつも夫の意見を求め，夫をたてる。

さて今こそ語ろう。良い結婚をしなかった人や，結婚しても子供を持てなかった人には，手に入らない宝がある。そういう人々はこの教義をいぶかるかもしれない。これについてヤング大管長はすべてが成就するよう用意されている救いの計画を語り，こう約束し宣言している。「多くの姉妹はその子孫と共に祝福にあずかれないので嘆くだろう。あなた方には幾百万の子供たちに囲まれる時が来る。もし聖約に忠実ならば，あなた方は多くの民族の母となるのである。」(「説教集」Ｐ.310)

私は何度となく若いカップルに結婚の聖壇にについて語ってきた。互いの親しさの余り，結婚生活を動物的なものにしてはならない。青天白日の思いを持ちなさい。結婚生活を，常に生き生きとしたロマンチックな気分で通したかったら，健全な言葉を使い，霊的な互いを高め合う交わりを持ちなさい。

先日私は，ヘンリー・リンク博士の「愛，結婚と子供」と題する記事の中に次のような言葉を見つけた。

「私は，子供を持つことは夫婦

の相愛の最終的な，最も強い裏付けだと納得するに至った。それは結婚が完成したことを雄弁に立証するものである。なぜならそのことが夫婦生活を利己的な愛や物質的な喜びの段階から，まず第一に献身から始まる新しい生活にまで高めるからである。夫婦の基盤を利害ではなく無私にするからである。そして夫は家庭を守り，妻は夫のその能力に信頼を置くようになる。つまり，どのような権力にも勝って，物理的な安らぎと同様霊的な安らぎをももたらすのである。」

女性の最も重要な母親としての任務は筆舌に尽くし難い。ナポレオン[3]はキャンパン夫人に尋ねた。「フランスの若者をよく教育するのに，何が欠けているかね。」「よい母親ですわ」というのが夫人の答えであった。皇帝は強く胸を打たれて答えた。「ただ一語で言い表わせる教育の方式があった。それは何と母親であった。」

ヘンリー・ワード・ビーチャー[4]は書いている。「母親の懐は，子供にとっては教室のようなものである。」この言葉は全く私の言わんとすることをすべて表現している。私は神権指導者たちに再三話している。最も重要な主の業は四囲の壁の家庭にあって姉妹たちがするのだと。

昔から私はうまくいっている大家族の母親にこう尋ねてきた。「あなたの家庭をうまく運営する秘密は何ですか。」ある母親が，私の質問に答えて1つのポイントを指摘した。「私は子供たちが成長する間，家庭にあっていつも道路標識の役割を果たしていました。」また別の母親は言った。「最初の子供には細心の注意を払いました。そして次の子供からはそのパターンの通りにすればよかったのです。」この考えをもっと前進させてもらいたいが，この考えの中にも従うべきものが数多くある。

またアイダホのあるステーキ部の一姉妹は，真の母性について語ってくれた。私はそのステーキ部で同じ時間に家をあけなければならないような職に父親と母親を召しているのを見て，かなり厳しい評価をしたことがあった。

だいぶ厳しい口調で言ったと思う。そのような話合いの後，ある副会長はいらいらして，自分たちは総辞職すべきだと言った。私は悔い改めようと思った。午後の集会で，私はステーキ部扶助協会々長の隣りの席につきこう言った。「あなたは9人のお子さんを持っていらっしゃるそうですね。少し時間をさいて，長い結婚生活の中で，どのようにして，家庭をうまく運営して来たのか，そしていつも組織の管理職にあり，教会の活発な働き手でいることができたのか話してくれませんか。」私は彼女がどんなことを話すか少しも知らなかった。だから，私が望んでいることを話してくれるように祈った。

彼女は言った。「私は亡くなった母の模範や助言に従いました。私は子供たちを，母が私たちを育てたように育てました。」このことをよく考えてほしい。現在の成功は次の世代へ，また永遠にまでも及ぶのである。家庭にあって十分にその務めを果たすならば，あなたの息子娘達は，やがて時が来てあなたの模範から，自分の任務

女性であることを誇りにしなさい

な福音への理解が燃えるところである。

私たちは皆，人を非難せず，求められるものを与え，子供たちのための道を直くし，私たちに用意されている道に行かねばならない。」

働かねばならない未亡人は監督か扶助協会の会長にその旨を申し出るとよい。扶助協会の姉妹は，そのような家庭の母親が出かけた後，必要なものを整え，家庭を守り，子守をして，親しく面倒を見るのである。おそらく子供たちが小さくて，母親が働きに行かなくても十分な物がある時期もあるだろう。その時期こそ，まず家庭にあって子供のためを考えなければならない。

去年，ある著名な人が奉仕クラブの夕食会でこう語った。「今は多くの物事に正攻法で取り組んでいない時代である。私たちは人が過失を犯し，麻薬を常用し，犯罪人となってからその問題を扱おうとしている。私たちはこのような問題が起きる前に，青年たちと共に行動すべきだということを忘れてはならない。家庭に代わるものは無い。家庭は子供の教育をし，習慣を造り，世間に立ち向かう強さを養うところである。両親と意思の疎通のない子供たちは，問題にぶつかると，家庭外でうっぷんを晴らそうとする。そしてこの著名なプエルトリコ人の議員はこう結んだ。「今日私たちは，社会の基礎となる単位は家族だということを回避して考える結果，序々にその絆を失いつつある。普通の家族には，親と子が共に過ごす時間が限られている。その時間を共通の活動を行なって楽しく過ごすべきである。」

過去50年間に，私は幾度このような話をしたことだろう。私は今，家庭の夕べというすばらしいプログラムに家族間の意思疎通の場があることを強調したい。私たちには，霊感を受けて開かれる家庭の夕べがあり，家庭の夕べが開けない家庭には，開けるようになるまで，その家庭を励ます，神権によるホーム・ティーチングプログラムがあることを，永遠の喜びとしなければならない。

先日，教会本部のロビーを歩いていて，若い女性と小さな子供たちに会った。握手をすると，彼女は言った。「私は数カ月前会員になりました。」私は御主人のことを尋ねたが，彼女は「おりません」と答えた。「私は独りで子供が8人おります。」私は言った。「御主人がいらっしゃらなくとももう寂しいことはありませんよ。ホーム・ティーチャーと監督が親しくお世話するでしょう。」すると彼女はにっこりして言った。「リー兄弟，私はどの方も持っていらっしゃらない，すばらしいホーム・ティーチャーと監督に恵まれていますわ。よく面倒をみて頂いています。神権者は私たちの生活にも関心を持ってくださり，見守ってくださいます。私たちは本当に父親のような人たちに恵まれています。」

私は，夫人に13年前に先立たれたソルトレーク市のある家庭に，夕食に招かれた。母親がいないので，年かさの子供たちが母親の役を果たしていた。私は後に奥さんの力なしで，どうやってこられたのですかと尋ねた。彼は私を窓辺へ連れて行き，ハイランドパークワード部を指差してこう言った。

「あれが見えますか。教会なしではやってこられませんでしたよ。教会が家庭を助け，子供たちの面倒をみてくれるんです。神様の計画に感謝しています。」

妻たる者は，夫が家庭に無頓着でないことを知り，労を報いなければならない。それには一策を要する。私はあることを知った。私の妻のジョーンがモナコのグレース王妃が「ファミリーサークル」という雑誌に書いた思いもかけない文章を手渡してくれたのである。王妃は扶助協会の会長の書いたものを読み，こう書いている。「私は私の家を守ってくれる隣人がいてくれたら，と思います。私が子供たちといる時間をみつけるには，まるで戦争のようなことをしなければなりません。夫と私は，できる限り暇をみつけて，子供たちと共に過ごします。その時間は何にも代えられないので，苦心惨憺して捻出しているのです。」

ある判事がこういう質問を受けた。「少年の非行の最善の治療法は何ですか。」このニューヨークの判事は答えた。「父親が家の長の地位と威信を失わないようにすることです。」次の話はそのような家庭の話である。十二使徒の２人の兄弟が，私もその１人であったが，ある管理役員の夫人に助力を求められ，そのステーキ部へ赴いた。彼女と御主人は離婚しようとしていた。私たちが彼女を説得しようとすると，自分は夫の家の使用人と大差がない，夫は仕事と教会でいつも家を留守にするのですものと言った。この言い分が真実であるにしろないにしろ，彼女は不満をつのらせ，がまんができなくなり，彼女の愛情を夫から奪ったやくざ者の腕に身を委ねたのである。

最近，女性は最低限の社交と，自分と子供に対する夫の関心に飢えている。御主人に無理強いしてはならない。必要なら，あなたと御主人と子供が一緒にいる時間をあなたが何としてでも作り出すことである。

また一方では，愛のある行ないが大切である。私の叔母のジャネット・マクミュランがおもしろい話をしてくれた。彼女は未亡人で，娘と暮らしていた。ある朝娘がやって来てこう言った。「お母さん，食べる物が何もなくなったわ。知っていると思うけど主人はずっと働きに出ているの。ごめんなさいね，お母さん。」

ジャネット叔母は，服を着て，家の仕事をするようにと娘に言ってから，ドアを締めひざまずいて祈った。「天の父よ，私は今までずっと戒めを守って来ました。什分の一も納めています。教会にも奉仕しています。きょう私共には全く食物がありません。父よ，私たちが飢えないように，心ある人に私たちのことを思い起こさせてください。」その時心は喜びと善き思いに満ちたと彼女は語った。

数時間後，ドアをノックする音が聞こえ，行ってみると，隣りの小さな女の子が食べ物をかかえて立っていた。未亡人は涙をこらえて，その子を台所へ連れて行き，こう言った。「ここに置いてちょうだい。帰ったらお母さんに，神様はおばさんたちのお祈りを聞いて，あなたをよこしてくださったのですと言ってね。きょうはおばさんたちは何も食物がなかった

の。」

小さな女の子は，何も言わずに伝言を聞いて帰って行った。そして，いくらも経たないうちに，大きな荷物を持ってやって来て，台所のテーブルにその荷物を置き，こう言った。「今度私が来たのもお祈りが聞かれたのかしら。」

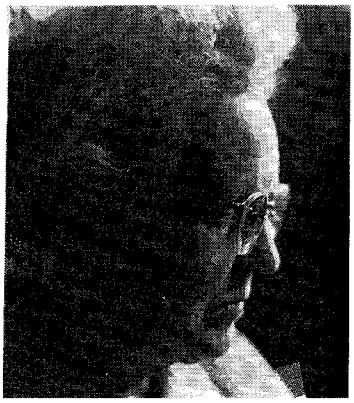
ジャネット叔母は答えた。

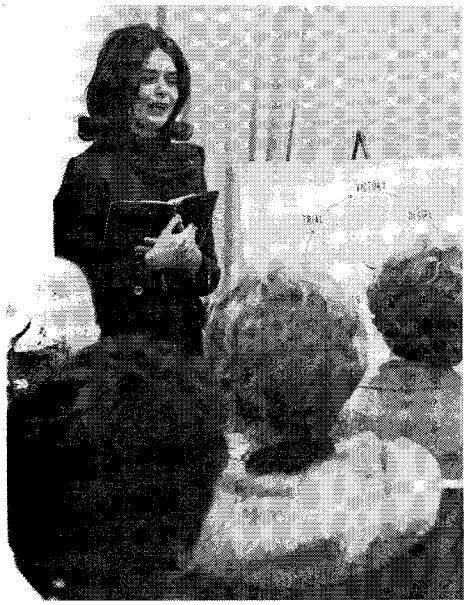
「いいえ今度は約束が果たされたのよ。50年前あなたのおばあちゃんも小さな子供が来るのを待っていたの。何も食物がなくて栄養がとれないので体力がなくてね。その時，おばさんはまだ小さな女の子で，あなたのおばあちゃんの家に食物を持って行ったの。そうしてあなたのおばあちゃんは赤ちゃんを生んだのよ。その赤ちゃんがあなたのお母さんなのよ。」彼女は続けた。「主はこう言われたでしょう。『あなたのパンを水の上に投げよ，多くの日の後，あなたはそれを得るからである。』今あなたが持って来てくれた食物は，あなたのお母さんが生まれる時，まだ小さかった頃おばさんがおばあちゃんの家に持って行った『パン』なのよ。」これこそ愛のある行ないではないだろうか。

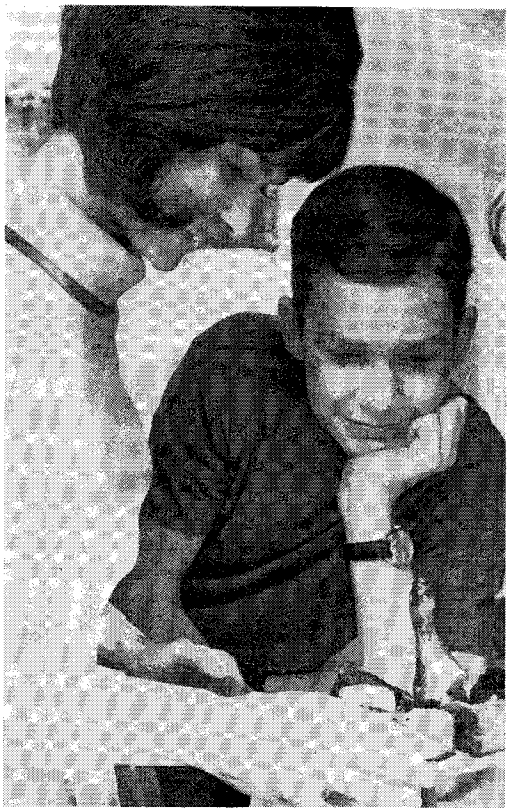
偉大なる王ベンジャミンは，行ないについてこう言っている「自分がのこりを持たないからと言って物もらいに与えることをことわる人々よ。お前たちは心の中で『物がないから施さないが，もしもあったら施したであろう』と言うと思う。さてもし，このようなことを心の中だけで言うのならば罪に当らないが，もしそうでなければそれは罪に当る。お前たちはまだ得ていないものを貪るからそれが罪に定められることは当然である。」（モーサヤ 4：24—25）

主は私たちがしたいことに対してだけではなく，心に思ったことに対しても報われる。予言者ジョセフ・スミスは示現で彼の父親と母親と兄アルビンが日の栄の王国にいるのを見て，教会が組織される前に死に，バプテスマを受けなかったアルビンが，どうして日の栄の王国にいるのか不思議に思った。すると主は言われた。「福音の知識なくして死したるすべての者は福音を受ける。而して我は福音の中に留る者を，神の日の栄の王国を受け継ぐ者となす。」（「教会歴史記録」第2巻P．380）だからこの世に生あるうちに妻たる者，また母たる者が受ける祝福を拒む者よ，心中に，「以前から私はできた，以前私はしようとした，私は持てるものを与えようとした。しかし今は持っていないので，与えられない」と言う者よ，主はあなたが行なったが故に祝福をくださるのである。来たるべき世は，何ら欠けた物がなく，すべきことがなくとも，心の中に義を望む人々のために保証されている。

今日の人に無関心な，世の中の悪に対する最も強力な武器は，主であり，救い主であるイエス・キリストに対する揺がぬ証である。子供たちが，あなたのひざの上にいる間に教育しなさい。そうすれば，強い人間に成長するだろう。もし迷うことがあっても，あなたの愛と信仰が，彼らを元の道へ戻すだろう。マッケイ大管長が言われたことを心にとめておきなさい。「いかなる成功も，家庭の失敗をつぐなうことはできない。」また，いかなる家庭も，家







庭であることを放棄しない限り，その務めを果たさなければならないということも。16，7歳の子供は扱いにくい。しかしあきらめてはならない。心の流通管にいつも信仰と愛を通わせ説得しなさい。私たちは神の子である。主は決してあきらめられない。

主は，天父の子らの救いと祝福のために働く私たちを大いに助けてくださる。己れを低くして，主イエス・キリストのみ名によって祈る。アーメン。

注釈1．マルチン・ルター（1483—1546）ドイツ人修道士，プロテスタントの創始者。

2．ジョージ・アルバート・スミス（1870—1951）1945年～51年大管長を務めた。

3．ナポレオン（1769—1821）1804年～15年のフランス皇帝。

4．ヘンリー・ワード・ビーチャー（1813—1887）アメリカプロテスタント牧師，編集者。

家庭から はじめなさい

十二使徒評議員会会員
ボイド・K・パッカー

私が招待されたのは神権者である父親を代表してである。私は，夫が不活発教会員であったり，まだ教会員ではない扶助協会の姉妹たちにお話し申しあげたい。そうすることによって，多くの人々に話すことになると思う。さいわいに活発な夫に恵まれている人々に対して，あなたがたのおかげで私は何かの援助を心要としている姉妹たちに話すことができると申しあげたい。私は非教会員のことを話すつもりはない。ただ夫がまだ教会員ではない姉妹たちに話すのである。

ステーキ部大会に出席するたびごとに，我々は，長年教会に入らなかったり忍耐強く耐えた妻の励ましによって現在あるを得たステーキ部指導者と会う。

私はこれまでに，妻が心から願い，どう励ましたらよいかを知っているならば，夫はいつまでも教会に逆らっていられないとお話してきた。このことについて，あきらめてしまう人が多すぎる。今，あなたがたは決してあきらめてはならない。この世の終りまでもまた来世までも，決してあきらめることはできない。あきらめることはできないのである。

ある人々は長い間さまよい歩いた末，人生の終りになって教会を見出し，教会に加わる。そして浪費した年月を後悔し，「なぜもっと早く知らなかったのだろう。福音を学んで進歩するにはおそすぎる」と言うのである。

私は，労働者を雇ってある日当を定め，夜が明けるや彼らを働きにだした主人のたとえから，大きな慰めを得る。それから彼は「まだ立っている人々を見たので，彼らに言った，『なぜ，何もしないで，1日中ここに立っていたのか』。彼らが『だれもわたしたちを雇ってくれませんから』と答えたので，その人々に言った，『あなたがたも，ぶどう園に行きなさい。よいものは何でも与えられるであろう。』」(欽定訳マタイ 20:6—7)

彼はそのようにして5時ごろまで，人を雇い働きに行かせた。そして1日が終る時，彼は全員に同じ賃銀を払った。すると早くから働いていた人がつぶやいた，「『この最後の者たちは1時間しか働かなかったのに，あなたは1日じゅう，労苦と暑さを辛抱したわたしたちと同じ扱いをなさいました』。そこで彼はそのひとりに答えて言った，『友よ，わたしはあなたに対して不正をしてはいない。あなたはわたしと1デナリの約束をしたではないか。自分の賃銀をもらって行きなさい。わたしは，この最後の者にもあなたと同様に払ってやりたいのだ。自分の物を自分がしたいようにするのは，当りまえではないか。……』」(マタイ20—12—15)

その主人はお金のことを言わなかった。

日の栄光の門は，早く来る人にもおそく来る人にも開かれる。姉妹たち，あなたがたは決してあきらめてはならない。もし充分な信仰と望みがあるなら，あなたはいつか家族の長に教会に活発な信仰厚い夫をいただくことができるであろう。

ずっと以前に希望を失ったある人が，はきすてるように「奇跡でなくては無理ですね」と言った。私はそうですと答えた。どうして奇跡でないことがあろうか。それは奇跡以外の何であろうか。そこには，さらに価値ある目的があると言えないであろうか。

イギリスにおける大会で，私は

同じような姉妹たちに話をし，夫を教会に活発であるかのごとくに見なさいと勧めた。信仰の行ないをもってそのようにする時，望みはやがて実現するであろうと。そして2，3日前，私はその会に出席していた姉妹から長い手紙をもらった。そこから少し読んでみよう。

「私のいただいた祝福師の祝福には，やさしい説得と導き，愛ある教えと理解により，夫は教会への態度を和らげ，機会があって福音を受け入れると書かれてあります。夫は福音がむずかしいと思っていますが，もし心を開いて主と聖霊に感じることができたなら，福音を知って，従うことでしょう。

私はいつもやさしく，愛と理解を持っているわけではありませんし，怒ることの方が多いので心配でしたが，それは悪いことであると知っていました。私は主に助けを祈りましたが，あなたのおっしゃいました，夫に教会員のように接しなさいということばがその助けでした。

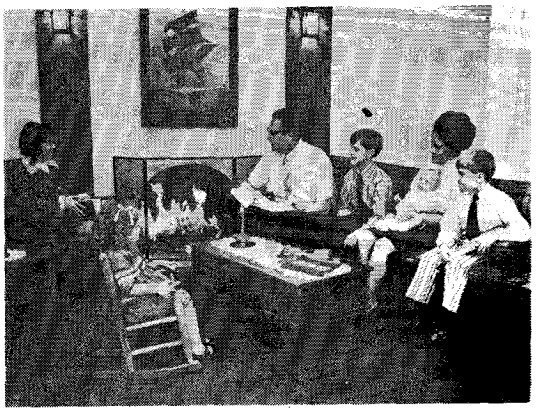
私はこの数日そのことを実行しました。それは非常に大きな助けとなりました。なぜかと言えば，もし夫が神さまの神権を持っていたとしたら，私はもっと従順な妻になり，神権を敬うはずだからです。

私たちの間は前よりも良くなりました。私は，やさしさや愛や理解を今持てないなら，私の家庭に神権をいただくにふさわしくないと，知ることができました。

このすばらしい姉妹は望みをもってこのように続けている。「夫と私と6人のかわいい子供たちが，聖なる神殿で結び固められ，キリストにあって家族が一致して主に仕えることができますように。」

このような奇跡を生む一助として，私は人とは何であるかについてお話し，どうしたらこのチャレンジに近づくことができるか提案申しあげたい。

まず，すべての男性は，家庭において正しい霊的な指導者となる責任を与えられるべきことを知っている。聖句にははっきりと，「人は皆善悪をわきまえることを充分に教えられている。」（Ⅱニーファイ2:5）と述べられている。妻が夫より先に教会に入った場合や，結婚した時から自分1人だけが教会員である時には，とりもなおさず彼女が家族の霊的指導者となる。たとえ夫が自分の立場を妻にとられているように考えたとし



家庭からはじめなさい

ても，彼は妻の側に歩み寄る方法をまったく知らないのである。彼は妻の立場に自分がとって代るべきだと感じるであろう。いかにしたら妻から霊的指導者の位置をとりあげることができるかをまったく知らないため，不快を感じ，たじろぎ，反抗することもあるであろう。

男性のエゴ，男性の本質に触れるこのような微妙な感情がある。あまりにもしつこく夫を教会に誘いすぎて，教会という場でも夫に指導してもらうようにすることを忘れてしまう女性が少なくはないということを，私は率直に申しあげねばならない。

愛する姉妹たち，家庭と家族が教会を構成する1単位であることを忘れてはならない。そのことを認識すれば，本当の意味で，あなたが家庭にある時こそ教会にいる時であること，少なくともそうあるべきことを知るに違いない。我々はとかく，いつも礼拝堂での集会に出席しなければ不活発だと考えてしまう。私は，リー副管長がかつて，自分の親しいだれかをそのようにして裁くならば，不活発であるが自分の知っている限りでは聖徒にふさわしい人であると述べられたことを思う。

夫を礼拝堂での集会に出席させることは第一に努力すべきことであるが，それが最初ではない。それはあとのことである。ここで提案をしたいと思う。

男が教会でくつろいだ気持になれない時，教会に出席させることはむずかしい。教会への出席は目新しい面倒なことかもしれず，克服できない習慣がまだ続いていたり，恥ずかしかったりして，教会で楽な気分になれないことがあろう。ここに別の解決法がある。それは，御存知であろうが，家にいる間，教会にいるような気持を感じさせることである。

我々は，夫が家ですることにしかるべき信頼を置いていないことがよくある。教会に行くことを教会活動の象徴であるかのように思い込んでいるのである。多くの点で，夫が家で行なうことこそまず大切である。

そこで，私の提案とは，まずあなたが家にいる時からはじめなさいということである。繰り返して言うが，夫が教会に行くことを面倒臭いと感じる時，あなたは，彼に家にいながら教会にいるように感じさせることを行ないなさい。

では，どうすればそれができるであろうか。その答えは扶助協会にある。私が思うに，現在の扶助協会の最大のチャレンジは，このような婦人たちが夫をよき言葉に向かわせるよう励ますよう援助をすることである。

最近，不活発教会員あるいは非教会員を父親とする家族を含めた1つの調査が終った。その父親たちは，説得ののち，家で家庭の夕べを開くことに同意したのである。そして，だんだんに進んで参加するようになった。自分の家で気楽に好きな時に行なうことができ，しかも家庭の夕べのプログラムがうってつけであったため，心を動かしたのである。

その結果は興味深い。彼らが家庭で教会に対する違和感をほぐされた時，家族といっしょに教会に通い始めたのである。

天の事物のいくらかを家に持ちこむことは，家族を教会にただ出席するだけの状態からさらに高めることである。家庭の夕べは，当然のことながら，そのために設けられている。

家族の必要にあわせて家庭で開かれるこの集会は，教会の集会とまったく同じであり，礼拝堂で行なわれる集会と同じになり得るものである。

あなたがたの夫が教会に活発になったり，教会員になることは，奇跡であるかもしれない。我々のうちのある者は，突然に起きるものだけが奇跡だと考えているが，ゆっくりと育っていく奇跡も存在するのである。忍耐と信仰は，決して起こりそうもなかった事柄を可能にすることができる。私の姉はそのために17年間忍耐したが，その17年間のかいがあった。またある監督は活発になるまでに30年を費やした。彼は，自分はあわてて突進するたちではなかったと言っている。

あなたがたは，家にいる時からはじめなさい。そして時間が短かろうが，長かろうが，永遠に近かろうが，忍耐をし続けなさい。イテル書に意味の深い聖句がある。「……信仰の度を試してからでないと目で見るような証明が得られないからである。」(イテル12:6)

家庭に天国を築きあげると，これらの奇跡が可能になる。

このことについてであるが，ある家族が家庭の夕べを始めて数カ月した時に，「毎週家庭の夕べを行ないましたか」と尋ねられた。

するとその家の母親は，「さあどうでしたか。1回だけ家庭の夕べをしたかどうか，はっきりしない週があったのです」と答えた。

再び「その時，何をしていたのですか」と聞くと，彼女は目に涙を浮かべて言った。

「その晩は，家族みんなで神殿へ行って，結び固めをしたのです。」

その時はメルケゼデク神権者となっていた夫が，椅子にきちんとすわり，喜びをこめて，家庭の夕べが家族の大切さと霊性の必要なことを感じさせる契機となったことについて話してくれた。

その妻は，「神殿に行った日は私の誕生日でした。今は什分の一を納めているので余分なお金がありませんから，プレゼントはもらいませんでしたけれど」と言い，夫を見つめて，「あなたからいただいたプレゼントのうちでいちばんすばらしかったのは，私たちを神殿に連れて行って下さったあの晩です」と言った。

また別の女性は，夫について，「いちばん良かった家庭の夕べは夫が教えてくれた家庭の夕べです」と言った。

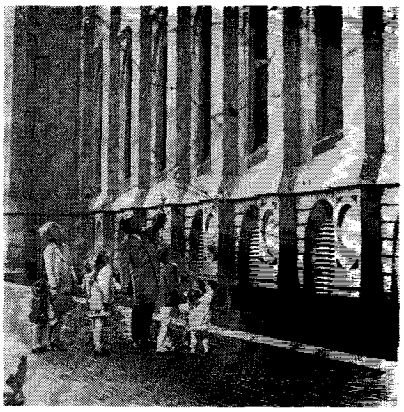
それを聞いた夫は「いやあ，あまりいいレッスンではなかったですよ」と言ったが，彼女はそれに答えて言った。

「いえ，あなたがレッスンをしたのですから。私は心からあなたを誇りに思います。」

すると彼はこのように言った。(これはいかにも男らしい言葉ではないだろうか)「あまりうまくはなかったと思うよ。君が知っているように，私はいつも厄介者だったけれど，自分の家族を教えた時には(家庭に教会を感じた時であることに注意しなさい)今まで感じたことのない気持になって，いろんなことのわけがわかるようになったのだ。」

現在，この男性は教会に出席し活発になっている。それもすべては，家庭に教会をつくり出したことから出発したのである。

さて，もしはじめにあなたの夫が奇跡を起こすことに同意せず，いやがったりしたならば，それでもあなたは自分のなすべきことを



家庭からはじめなさい

いっしょうけんめいつとめなさい。福音を価値あるすばらしいものとして，生活に生かし夫が福音に逆らえないようにしなさい。

何年か前にタトル長老と私は，別の町へ出かける前の夕方に，ある地域の教会指導者を訪問した。彼はまだ仕事から帰っておらず，彼の妻は台所で忙しく立ち働いていた。彼女は我々を台所に招き入れ，我々が待っている間，仕事を続けた。

弁当箱が調理台の上に並べられた。彼女は，その晩は支部で弁当夕食があるので，1日がかりで最上の弁当を用意したと説明してくれた。

彼が帰り，彼女は天火から暖かいチェリー・パイを取り出した。そして我々にアイスクリームをのせたできたてのチェリー・パイをすすめてくれた。もちろん，我々は断わることができなかった。

それから彼女は夫の方を見た。私には，その時彼女がこう考えていたと感じられた。「あなたもパイを食べたいでしょう。でもそうしたらあとでお弁当がおいしくなくなるわ。でもおふたりが召しあがっているのをすわって見ているのはかわいそうだし，もし食べたら，私が苦労して作った食事があまりおいしくなくなってしまう。」

心中迷ったあげく，心を決め，彼女は他のパイを切りはじめた。あきらかに我々のパイよりも大きく，アイスクリームも少しよけいに。彼女はそれを彼の前に置き，彼のあごを手の甲でちょっとしゃくりながら言った。「あなた，こんなものが食べられて，福音ってすばらしいでしょう。」

あとで，私がその時の夫に対する態度のことでからかった時，彼女は「彼は私から離れませんわ。私は男性をどう扱ったらいいか承知しています」と答えた。

繰り返して申しあげるが，現在扶助協会に課せられている最大のチャレジは，数多くの愛すべき妻たちが夫を力づけ，励まして家庭に天国を築きあげる援助をすることである。姉妹たち，福音を夫にとっても価値あるものとなし，彼らにそれこそ自分たちの目的であることを知らせなさい。

ほとんどの女性は，男性にそれらの事柄を理解することを期待し，そうでない時にはいらだったり，われを失ったりすることもある。しかし男性はその点に敏感ではない。男性はこのような事柄に関して，面の皮を厚くしたり，鈍感になったり，人が変わったりすることがある。あなたが「夫は私の望んでいることが何であるかを知るべきだ」と言う時，おそらくそれはそうであろう。しかし現に夫はそれを知っていない。彼に話してあげなくてはならないのである。

私は昨日，そのような父親に家で祈るよう励ましたホーム・ティーチャーの話を聞いた。父親は聞き入れず，ソファーに横になっていた。彼はついに床にひざをついたが，祈ろうとはしなかった。それで妻にお祈りを頼むと，彼女は涙ながらに心の底から一番の願いを主に祈った。

祈りが終った時，その夫は，驚いたことにいろんな点で無知だったと考えるのだが，このように言った。「知らなかった。君がそのようなことを望んでいたなどとは知らなかった。これからの私はきっと変わるよ。」

夫に知らせなくてはならない。あなたがどんなに福音を大切にしているかということ，福音のゆえ

にさらに夫を大事に思うこと，福音が自分にとって何であるかを。あなたの妻，母，愛する伴侶としての成長は，福音に根ざすことを夫に知らしめなさい。

さて，私は1人きりでいる愛する姉妹たちに少しお話したい。いや，1人きりの姉妹などはいないので，言葉を改めるべきであろう。まだ結婚の機会に恵まれない姉妹や，離婚や死によって夫を失った姉妹たちのことである。

あなたがたの中には，乏しい予算やさびしさに耐えて，1人で残された子供たちを育てている人もいるに違いない。私はそれを償う偉大な力のあることを知っている。心要ならば，みたまからあなたに父，母両方を兼ねる力が与えられることを知っている。

教会幹部の中にも，愛深い片親家庭で育った人々は何人もいる。私はその1人が大会で，自分の少年時代にはお金では買えないものをみな持っていたと証するのを聞いた。

姉妹たち，あなたがたには神権の守り手がついている。ワード部の父親は監督である。彼に援助を求めなさい。そうすれば他の人が彼を代表してやってくるであろう。ホーム・ティチャーに手伝いを頼みなさい。特に少年の養育に男手の必要な時に。

あなたがたは1人ではないことを忘れてはならない。あなたを愛する主がおられる。主はあなたを見守り，みたまの力が慰めとなる。

またあなたがたに申しあげる。決してあきらめてはならない。決して，この世でも次の世でも。なぜなら，やがて裁きの時が来て，主があのたとえで言われたように「……相当な賃銀を払う……」(マタイ20:4）からである。

アルマ書に興味深い聖句がある。「…見よ，お前に言うが，小さくてやさしい事から大きな事がでてくる。また小さな手段で賢い人をうち破ることがたびたびある。」(アルマ37:6)

ここに扶助協会の愛すべき母親がいる。スプーンとボールを手にエプロンをつけ，ほうきをもち，ミキサーやパイ皿を使い，フライパンを使い，辛抱強く，忍耐をもち，愛情に富んで，糸や針を持ち励ましの言葉を口に出し，信仰をもち，毅然として理想の家庭を築く母が。あなたがた，そして扶助協会は，このような小さいことにより，自分と末日聖徒イエス・キリスト教会，主のために勝利をかちえることができる。家族の力が1つに結ばれ，今も永世にも結び固められる。大勢の男性が，資格ある者もまだふさわしくない者も主のみ業に仕えなければならない。今は，知らずして，あるいは好まずして枠の外にいる夫や父親たちも，みな心から彼らのことを思う主の仕え女たちにより，力を得るのである。

神があなたがた姉妹を祝福されるように。やもめである人々，女手1つで家族を養っている人々を祝福して下さるように。何千何万の扶助協会の援助を得て自分の理想実現のために努力する妻や母親たちを祝福して下さるように。

主はキリストである。主は生きておられる。これは主の教会である。奇跡の時代は止んではいない。お話したこれらのことは，神の参画したもう奇跡である。このことをイエス・キリストのみ名によって証申しあげる。アーメン。

家庭の夕

末日聖徒の両親は常に家庭や子供たちのためを思っていると，私は信じています。また，一般的に言って，末日聖徒の子供たちは両親の教えや家庭の標準を重んじていると信じます。そうでなければ年々数多くの青年男女が教会の教えを代表し，家庭での教えを反映しながら，伝道に出かけることはないと思うのです。

しかし，現在は生活をとりまく様々な環境がいっそう両親の関心をひき，いろいろな場合に，望ましい親子関係，あるいは子と家庭の関係に摩擦が生じるように見えます。

そのため，家庭や家族やその神聖な将来のことなどについて教会の教えを再び強調し，教会が両親の援助をする必要が生じました。私たちはプログラムにより，新たな指示を受けています。その中で最も大切なものは家庭の夕べであると思います。

私は，正しく行なわれる家庭の夕べがどんなにすばらしく意義あるものであるかということを示し，母親の役割をはっきり教えてくれる1つのお話をしたいと思います。それは歴史にあった実際のお話です。

その家庭は農家でした。家族は干ばつや貧弱な土壌のために隣りの州に引越さなくてはならなくなっていました。働き者の父親は家族を愛する正しい人でしたが，彼はそれでも失望しませんでした。彼は引越しという重大なことについて母親や子供たちに相談したのですが，みな引越しに賛成しました。母親は賢く理解があり，とても霊的な性質の人でした。子供たちを愛していた彼女は，辛苦や肉体的な苦労にも不平を言わずに耐えていました。

彼らには8人の子供がいました。子供たちはお互いに尊敬し，愛しあい，1つになって家族のために働きました。弟を深く愛していた長男は，そのために果てしない迫害や言語に絶する苦難に耐え殉教しました。この兄弟の関係は

扶助協会中央管理会会長
ベル・S・スパフォード

ダビデとヨナタンに比べられます。

ある日，14才であったこの末の弟は，非常な霊的経験をしました。母親の言うところによると，彼は「仰天し当惑」しました。その前にも彼は天使から話を聞くという霊的な経験をしていました。天使が2度目に訪れた時，彼は見聞きしたことをみな父に告げるようにと言われました。彼は少年でしたから，とても不思議な自分の経験を父は信じてくれないのではないかと心配しました。しかし天使は父の心を知っていたので，父親は言うことを信じるだろうと少年に言いました。

父親は少年の話を聞いてすぐに信じました。それを母親と話し合ったに違いありません。1日の仕事が終わったおだやかな夕べに，父母は家族を集めて少年ジョセフから，父なる神と御子イエス・キリストにまみえ，天使モロナイの訪れを受け，主からジョセフにせよと命じられたことなどを聞きました。この少年が新しい経験をするたびに，それから幾晩もこのような夕べの集まりが開かれました。このような家族の夕べの説明を，予言者の生涯について記した母親の書物から引用してみます。

「その家族の様子は，これまで地上に生活したどの家族とも似ず，きわめて風変わりな様子であったと思う。父，母，息子，娘たちが輪を作って腰かけ，これまで聖書を読んだこともなかった18才の少年に，この上なく深い注意を向けていた。彼は他の子供たちよりも本を読まないようであったが，思索と勉学には時間をかけていた。

私たちはその時，神が何かを明らかにして，私たちの心を満たされるか，救いの計画や人間の贖いのことについてもっと確かな知識を与えようとしておられるという意見を確認した。」

それから彼女はこのように結んでいます。「……うるわしい一致としあわせがこの家を包み，私たちの間には平安がみなぎった。」（「ジョセフ・スミス伝」 母ルシィ・マック・スミス，pp.82—83）私にとって，これは印象深い家庭の夕べの描写です。

うるわしい一致としあわせが家を包み，平安がみなぎるために，私たちの何人が一生懸命努力しているでしょうか。

ここで，私は皆さんに次のことを考えてほしいと思います。

ジョセフが神さまの召しを受け入れて，そのために働いたことに家族の夕べの集まりは役立っていたでしょうか。

家族は，予言者に続き，回復された福音が真実なことを確信し，その業に励んだハイラムの働きを支持したでしょうか。

回復された福音に忠実であった家族は，家族を１つに結ぶということ以外にどのような益を受けたでしょうか。

天使はなぜ少年に，父親に話しなさいと命じたのでしょうか。なぜ母親でなく，愛する兄でなく，親しい友や，教会のだれかでなかったのでしょうか。この世の生涯で，主が子供に対する１番の責任を負わせておられるのは，だれでしょうか。家族を一致させることにおいて，母親の役割は何だったでしょうか。彼女は，息子の不思議な話を受け入れた子供たちの態度に，何らかの影響を与えはしなかったでしょうか。

反対に，父親が農場の仕事で忙しく疲れていて，少年を邪魔に思ったり，話を信用しなかったならどうでしょうか。

母親が，外部の関心事や活動に時間をとられて，家族を集めることができなかったらどうでしょうか。もし母親が父親に，「ああ，このことは私たちだけのことにしておきましょう。働きづめで疲れました。上の子たちは自分のことをしているし，小さい子たちはもう寝ています」と言ったらどうでしょうか。また，家族の夕べを開こうとしている時に外出中であったらどうでしょうか。

もし父母が聞こう，信じようという良い雰囲気をつくらず，子供たちを無秩序のままにほっておき少年の話を笑ったり，疑ったり，非難したりさせたならどうでしょうか。「仰天し，当惑している」少年を，いっそう困らせることになったのではないでしょうか。

両親が，子供たちが何を考え，何を思っているかを知らないことはよくあります。大切でないことのために大切なことを見失うことはよくあります。忙しいために，家族が一緒になって耳を傾ける時間をとらないことがよくあります。

さらに，子供に与えられる神の召しが何であるかを知っている両親はごくまれです。私たちは，教会を管理する偉大な人々が，この民を導き，指導するために主から選ばれた人々であることをよく知っています。彼らが啓示と霊感によってそれを行なうことを知っています。彼らが家族は永遠であるという教義を理解していることをよく承知しています。彼らは，家族を１つに結び，永遠の益となるように，民をどう導くべきかを知っている人々です。では，私たち両親の役割は何でしょうか。それは簡単なことです。聞いて，従うことです。

主は言われました，「汝らもし，日の栄の世界に一つの所を得んことをわれに願わば，わが命じて汝らに求むるところを行いてその備えを為さざるべからず」（教義と聖約 78：7）

私たちは，主が教会の管理神権者たちの言葉や書物によって私たちに語られることを，いつも忘れないようにしましょう。家族のためを本当に思うなら，家庭の夕べを行なうことだけでなく，生活にかかわるすべてのことにわたって，永遠の祝福が受けられるように，それらの神権者の勧告に従いましょう。それは，末日聖徒の家族すべてのための私の祈りです。

「獄にいたときに尋ねてくれた」

（マタイ　25：36）

管理監督会
ビクター・L・ブラウン監督

兄弟姉妹の皆さん。この混乱した世にあって，当惑し落胆し，おのれを見失っている人々に何か意義のあることを述べ，自分を見出す道があるという励ましと信仰を与えられるようにと望み願っている。問題の解決は何か高度で大げさな公式の中に見出されるものではなく，イエス・キリストの単純明快な福音の真理の中に見出されるのである。それはこの世にあって真の平安と幸福に至るただ１つの真実で永続する道なのである。

最近，私はきわめてまれな状況のもとで，この真理に対する証拠を目撃したが，そのことをお話したいと思う。ことしの６月，私はこの教会のインスティチュート（宗教講座）と社会事業部がユタ州刑務所で主催した卒業式に出席するよう招待された。17人が証書を受けた。９人が第１年度の証書を受け，５人は第２年度，３人が第３年度の証書を受けたのである。ほかに24人が同じ宗教クラスに参加したが証書を受ける資格はなかった。

私が記憶しているところでは，２名だけはすでに出所していて，証書を受けるためその刑務所へ戻ってきており，ほかは全部服役中であった。多くの人が教会員ではなかった。

刑務所内で，讃美歌「たえず頼り主求む」と「祈りは楽しき」が美しく感動に満ちて歌われるのを聞くなどとはだれが期待するだろうか。白人と黒人からなるコーラスで歌われたのである。

囚人服を着た人々が謙遜になって心からの祈りを神に捧げ，今や自分のものとなった福音の知識と，福音によりもたらされる祝福に感謝を表わしたのである。数人が説教壇に立ち，神が生きてましますのを知っていると証し，神の恵みに感謝を捧げた。私はここで２人の人についてだけ話したいと思う。２人はすっかり社会からはみ出ていて，刑務所などに入ったことのない我々とは違った内面的，個人的問題をかかえている人たちである。本当の名前は明かさないことにする。

最初の１人をジムと呼ぶことにしよう。ジムは遠い州から来ている。ジムは容貌が良く，髪もきれいにかっていて，まだ30そこそこである。ジムは現体制や社会秩序に反対した１人であった。問題のある家庭の出身で，生活の面で愛を経験することがなかった。17歳で家を離れ軍隊に入った。除隊後は生活に何の目標や目的もなく，ただ国中を放浪し，最後にソルトレーク市にいる自分を発見したのである。ジムは窃盗にまきこまれたあげく逮捕され，刑を言いわたされて刑務所へ送られてきたのであった。あの日ジムは逃亡したが，再び捕えられ重度の保護処分になった。ジムの言葉を借りると，「重度の保護から出て準保護処分になったが，これから先どうしていったらいいのかわからなかった」と言っている。

ジムが経てきた騒ぎを少しは知っている囚人の１人がジムをこの教会の教戒師に会わしてくれた。そのことはジムの生涯にとって，全く新しい経験の始まりとなった。ジムは自分が束縛の身であることを承知していたにもかかわらず，存在するとは知らなかった自由へ向かって最初の歩みを踏み出した。

刑務所生活のために特別に計画された教会のプログラムに数週間接したあと，ジムはタバコをやめると言った。そして，教会社会奉仕事業機関が主催する種々の宗教プログラムに参加するようになった。「あの日以来私はタバコをやめた。去年の12月からはコーヒーもやめている」と語った。ジムは個人的な悪習慣に打ち勝つ心地よさをさ

らに語ってくれた。

ジムはまた，ホーム・ティーチャーが催してくれる「家庭の夕べ」についても語ってくれた。もしこのすばらしい2人がホーム・ティーチャーとして割り当てられていなければ，がっかりしていくどもあきらめようかと思ったかもしれないと説明してくれた。2人のホーム・ティーチャーはジムを息子のように，本当に小さな子供のようにかわいがってくれたそうである。ジムはそのような経験がなかったのである。ジム自身の言葉によると，「私は1970年6月16日からこのプログラムに参加しているが，この16カ月の間に，私は今までにない程変わったと思っている。——社会の目まぐるしい競争から隔離されたこの壁の中で——。刑務所に入る前の23年よりも，はるかに今の自分が，将来を見通しているのだとわかった。私は刑務所に入る前は，末日聖徒がどんな人々でどんな教会か全く知らなかった。」ジムはまたこう語った。「私は刑務所にいることを誇りには思っていないが，そこで得た経験は誇りに思っている。刑務所の収容者に末日聖徒が提供してくれたこのプログラムを卒業できることを心から誇りに思っている。」

この人こそ卒業式を常に感動あふれるものにした1人なのである。今やジムの目標は，刑務所を出られるよう社会に罪の償いを終え，バプテスマを受けて教会の会員になる準備をすることである。

さて次にエドについて話そう。エドもまた遠い町から来た。9歳の時盗みを始めた。13歳の時自動車強盗で逮捕され，後に重窃盗罪を宣告されて他州の刑務所へ送られた。エドはユタへ来て再度逮捕され重窃盗罪を宣告されてユタ州の刑務所へ送られた。

エドはジムとほとんど同じ方法で，刑務所内で開かれている教会社会奉仕事業計画を知った。ある日エドが1つの集会に出席するため教会へ行く途中，常習犯だけがよくするように何人かの囚人がエドをひやかしたのである。エドは刑務所に入る前は，そのような場合応酬してやりあったものである。しかし，改心したいと思っているエドをさえぎる物は何もなかった。

エドは特別にすばらしいホーム・ティーチャーを割り当てられたが，彼らはエドと「家庭の夕べ」を開くため，しばしば刑務所へ自分の子供を連れていったのである。子供たちはエドを兄のように思った。エドも自分を彼らの家族の一員と思った。エドは出所してこの卒業式で証書を受けるために戻ってきた1人である。エドは卒業式で話すよう招かれたのであった。

エドは説教壇に立つと1枚の紙片をポケットから取り出した。それを皆の前に掲げながらこう語ったのである。「皆さんはおそらくこれが読めないでしょう。でもこれは私の生涯にとって最も大切な書類です。これは次の木曜日に私がバプテスマを受けるのを許可してくれているバプテスマの推薦状なのです。」エドはバプテスマを受けた。按手確認のあと，エドは部屋の片隅へ行って1人で泣いていた。そしてアロン神権の執事に聖任される時もそれ以上に泣いた。

以上の話からどんな結論が引き出されるだろうか。確かにこの2人は大きな問題に直面していた。2人は監獄に監禁されていて肉体的な自由は失っていたが，それは問題の根本ではなかった。もっと重大なことは生活の面で目的が欠けていたことである。行くべき所がなかった。見失っていたのである。生きることに意味がなかった。2人はなぜこの地上にいて，どこへ行こうとしているのかわからなかったのである。

刑務所から釈放されても，それは2人に差し迫っている問題の解決にはならなかったのであろう。しかし，刑務所という環境にあって，ついに2人を真の自由な人間にさせてくれる釈放を見出した。つまり2人は，救い主イエス・キリストとその福音を見出したのである。

ジムやエドと同じ境遇にいる自分に気づいている人が多い。なにも矯正機関に入っていなくとも，法律によっても釈放できない監獄，つまり，アルコール，麻薬，不品行，利己心，不正直怠惰，生きる目的がないなどのような個人的習慣の監獄にいる自分に気づいている人が多い。そう，これらのものはどのような国の刑務所よりも人を縛りつけだめにしてしまう。しかし，自由へと逃れるのに，人が考え出したどのようなものよりもすぐれた道，ジムやエドが見出した自由への道がある。

この自由は，神の計画を受け入れ，我々が永遠の生命を見出せるよう，1人1人のためにその命を捧げてくださった方の戒め，すなわちイエス・キリストの戒めを守ることによってのみ見出すことができる。そこでイエス・キリストはこう言われた。「また真理を知るであろう。そして真理は，あなたがたに自由を得させるであろう。」（ヨハネ8：32）イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

メアリー・ジョイス・カップス
絵：　テッド・ナカダ

イエロー・リーフの贈り物

イエロー・リーフは深い澄んだ小川に突き出た，こけにおおわれた丸石の上に横たわっていました。そして夢見るように深い池の底の小石の間をかぎまわっている大きなまだらもようのマスを見つめました。にじ色のはん点とオリーブのような緑色をしたそのマスは大変美しかったのですが，イエロー・リーフはそれを取る気はありませんでした。うすい金色をしたガが，水面すれすれのところで羽をばたばたさせました。マスは身をひるがえし信じられないほどの速さで水面に上がって来ました。「アー」インディアンの少女は，ガが見えなくなってしまったので，悲しそうにため息をつきました。

聞きなれないギーギーという音に，イエロー・リーフはびっくりしました。その音につられて丘の頂上まで行って下を見おろすと，２頭の牛に引かれたぶかっこうな，そまつな荷馬車が下の方に行くのをあきれてみていました。ギーギーという音は，ひどく油がきれた，鉄をはった車輪の音でした。

なおまだ空中に舞い上がるひどい砂ぼこりから判断すると荷馬車は，乾ききった，一面石におおわれた砂漠の外に出て来たところのようでした。荷馬車の人々は，生き残るために夜通し荷馬車を走らせたにちがいありません。日中のあの暑さの中を先に進むことは不可能だったでしょうから。

その荷馬車は，おおいがしてありませんでした。ほろ布の

切れはしが，荷馬車の荷台の屋根の骨組みとなっている金属製のたがにくっついていました。両わきにしばりつけられているはずの水だるもありませんでした。少しよって見ると，彼らがインディアンにおそわれたことを示すように，荷馬車のベッドに１本の矢がつきささっていました。

この家族は，おそらく荷馬車の行列から生き残った，たった１つの家族だったのでしょう。イエロー・リーフの部族の敵でもある西の方に住んでいるインディアンの部族が，条約が破られたためにちょうど戦いに出ようとしているところでした。その部族が，荷馬車の行列を攻撃したにちがいありません。

イエロー・リーフは，その小さな家族がかわいそうになりました。「ここにいたらきっと死んでしまうわ。」彼女はつぶやきました。イエロー・リーフは，小さな赤ちゃんをだいた女の人が，２人の子供を，大きな丸石でできた日陰によせるのを見ました。また男の人が，ふらふらしながら岩の間を歩きまわり，何かをさがしていました。

「水！のどがかわいて死にそうなんだわ。」イエロー・リーフは，水だるがなくなっていたのを思い出して，そうつぶやきました。「牛じゃなくて馬を持っていたら，馬は水をかぎつけてそこへ引っぱって行ってくれるだろうに。」

イエロー・リーフは，とても彼らを助けたいと思いました。近づいたら必ず撃たれてしまいます。残念に思いながらイエロー・リーフは立ちさろうとしました。

赤ちゃんの弱々しい泣き声に，彼女は立ち止まりました。それは彼女の幼い弟のように聞こえました。

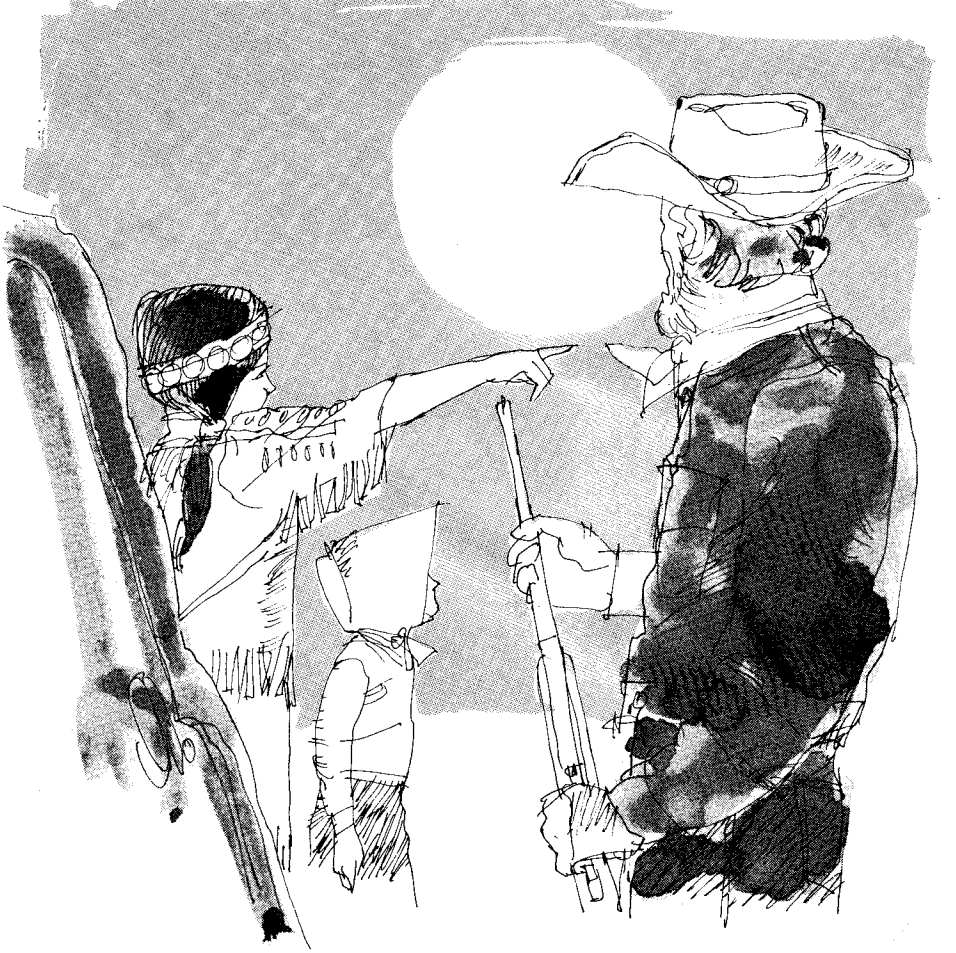
後ろを見ると，男の人が少し離れたところで，なおまだやせ地の岩の間をぬうようにしてさがして歩いているのが見え，水が流れている所があるのに，彼はそこがどこなのか，どうしてもわかりません。それにまちがった方向に行きかけていて，のどの乾きと衰弱のためにもう倒れてしまいそうでした。

また赤ちゃんのか弱い泣き声がしました。イエロー・リーフは，小川へ急いで走ってもどりました。土器から赤むらさき色のイチゴを全部あけて，それに冷たい水をいっぱいに入れました。

そして，ちょっとためらってからけわしい坂を静かにそっと下りました。

女の人は，子供たちをかばうようにして横たわっていました。目は閉じられ，唇ははれあがってひびが入っていました。インディアンの少女は危険なことなどまったく忘れて，ひざまずき，そして両手に水をくみ上げ，それを女の人の顔にかけました。彼女は驚いて目を開き，そしてイエロー・リーフの黒い目をじっと見つめまし

たが，その青い目は，とても信じられないといっているように見えました。しばらくの間，イエロー・リーフは，女の人が悲鳴をあげはしないかと思って息を殺しました。その声を聞きつけて，イエロー・リーフの人々が恐れている長い銃を持った男の人が走って来るかもしれないと思ったからです。



しかし，女の人は，恐ろしさより子供たちに気を取られていました。荷馬車から金属のコップを取って子供たちに渡してから飲み過ぎないように，年上の男の子と女の子を注意深く見守っていました。それからは赤ちゃんの世話をし，子供達の頭を冷やすために布をぬらしました。その時だけ彼女は自分で水を飲みました。

子供達を見ることに心をうばわれて，イエロー・リーフは男の人が近づいて来るのに気がつきませんでした。イエロー・リーフは，女の人が「だめ，フランク。いけないわ！この子は私たちに水を持ってきてくれたのよ。」と叫ぶまで，危険が迫っていることに気がつきませんでした。

ライフルを下げた時，男の人はぼうっとしているように見えました。「水？このかわいた土地のどこに水があるんだ。どこにも草の葉１つないのに！」

その背の高い，やつれた男の人は，のどのかわきをいやしてから，土器をさして，「どこで？」とたずねました。イエロー・リーフががけを指さした時，彼の疲れた顔から血の気がなくなりました。

「私たちは，決してあそこまで荷馬車を押し上げることはできない。彼は重い荷馬車と，のどの乾いた牛の方を身ぶりで示しため息をつきました。

イエロー・リーフは彼が何を言おうとしているかわかりました。彼女は荷馬車の方へ歩いていって，そこで待っていました。「彼女は私達に荷馬車に乗ってほしいんです。たぶん道を知っているんだわ！」女の人は心をおどらせて言いました。牛の先頭に立って歩きながら，イエロー・リーフはやせこけた丘をまわって，小川が銀色の糸のように流れている緑の谷へ続くなだらかな坂へと案内しました。

「まあ，こんな美しい場所は今までに見たことがないわ。ここは夢に見た場所よ。」女の人は喜びのあまり叫びました。

「そうだね。小屋を建てる木もあるし，整地するのに，それほど手間はかからないだろう。サラ，土地も肥えているよ。ほとんどどんな物でもここでは育つだろう。」男の人はやさしそうに言いました。彼の目は喜びと希望で輝いていました。

インディアンの少女が姿をかくすのをどちらも気がつきませんでした。ふり返りながら，イエロー・リーフは男の人と女の人が手をにぎりあい，将来の雄大な夢に夢中になっているのを見た時，涙が目をさすのを感じました。

彼らは，あれはてた岩だらけの丘の後ろにかくれていた肥えた谷を見た最初の白人でした。美しい緑の土地をあげた時にイエロー・リーフが味わった苦しみを彼らは知っているでしょうか。

寒けがイエロー・リーフをおそいました。急に彼女は羽をバタバタさせていた金色のガのような気持になりました。

アルマ

マーベル・ジョーンズ・ガボットによるモルモン経物語

絵：アーノルド・フリバーグ

目上の人から期待され，励まされ，友達もいるときは勇敢な行動をするのはむずかしくありませんが，ひとりのときはむずかしいものです。アルマはいつもひとりでした。イエス・キリストは神の御子であって，いつか地上に来られるというアビナダイの言葉を信じたのはアルマだけでした。アビナダイをみんながあざけり悪いノア王が試し，祭司たちが殺してしまえと叫んでも，アルマだけは，アビナダイにやさしい言葉をかけ，親切にする勇気を持っていました。

アルマはノア王の祭司でした。アルマはまだ若かったのですが，アビナダイが人々は悪におちいっていると言ったのは，まったく真実を語っていると気づいていました。アルマは王にアビナダイの命ごいをしました。すると王は怒ってアルマを追い出し，家来に命じてアルマの後をつけさせ，殺してしまおうとしました。

アルマは王の家来たちからのがれ，身をかくして，自分の覚えている限りのアビナダイの言葉を書きました。

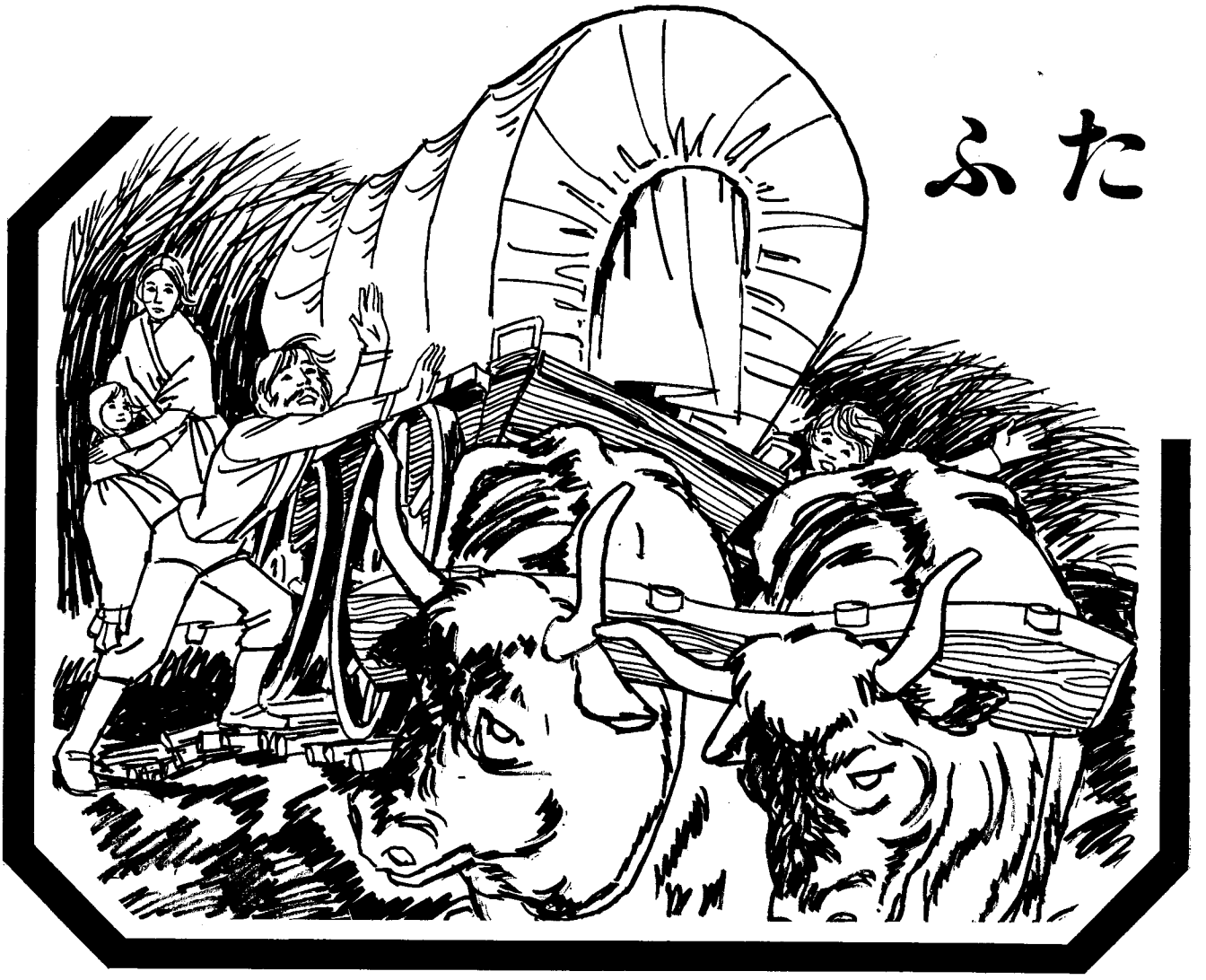
しばらくしてアルマは市に帰り，かくれて人々にイエス・キリストについて教え始めました。人々は少しずつアルマの言葉を聞き，信じるようになりました。アルマはその人々に，モルモンと呼ばれるところに行くように言いました。そこには清らかな水がわく泉があり，昼間アルマが王の追手から身をかくす木かげがありました。

たくさんの人がアルマの言葉を聞きに集まりました。アルマは信仰と悔改めについて話しました。まずヒーラムが信じ，アルマと共にバプテスマを受けました。2人は体を水に沈め，喜びに満たされて水から上がると，みたまに満たされました。そしてアルマはバプテスマを受けたいと望むすべての人にバプテスマを施しました。アルマとアルマに従った人々は自分から，キリストの教会と名乗りました。

儀式などはすべてモルモンの地，モルモンの泉で行なわれたので，ノア王から身を隠している人々にとって，聖なる地となりました。しかし，ノア王は何か普通でないことに気づき，安息日にあやしいと思われる人の後をつけさせ，どこへ行って何をしているのか見て来させました。そこにはアルマとアルマに従う人々がいたのです。ノア王は怒り，軍隊をさし向けて，キリストの教会の人々をすべて殺してしまおうとしました。

しかし，このときはアルマはひとりではありませんでした。王の軍隊に注意するように教えてくれる友だちがあり，聖徒たちは財産をまとめ，家族をつれて荒野へ旅立ちました。

総勢450人でした。



ふた

トミーの家族がシュガークリークのキャンプを出たときに1台の荷車はトミーが，もう1台はトミーのお父さんがあやつっていました。トミーは牛を走らせるのははじめてのことなので，夢中でやっていました。ですから太陽が輝いているのも，暖かくなってきたのも気がつきませんでしたし，お母さんが重い冬のコートをぬいでかるいショールをかけていることさえも気がつかないほどでした。トミーは，牛を休ませないようにするにはむちを鳴らせばいいんだということしか知りませんでした。突然，車輪がやわらかい草原のぬかるみにずぶずぶとしずんでいきます。それは地面の氷がとけたためでした。そして時間がたつにつれてどんどん深くしずんでしまい，ひきあげるのがむずかしくなっていきます。

トミーはきのうシュガークリークを出た本隊にとても追いつくことはできないだろうと心配でした。しかし午後になって本隊のキャンプがそれほど遠くない気配を感じたときにはほんとうにうれしくなりました。トミーは牛をなだめすかしおとなしくさせました。

「そら，今だ」「引け！」牛はその言葉がわかったかのようにそれに答えて車輪が動くように力をこめて前にふみだしました。そのときトミーは，友だちがまわりで感心して見ているのに気づきました。

「シュガークリークからずっとつれてきたのかい」と1人の子供がききました。

「えらいね。」「ぼくのお父さんもさせてくれないかな」ともうひとりが言いました。

突然雨が降りだしてきました。はじめはよわいおだやかな雨だったのでトミーが牛の乳をしぼり，お父さんがえさをやっているときには気になりませんでした。そのあとでテント

りの男

メアリー・プラット・パリッシュ

をはるころになると，激しくふり出し，トミーのからだの中にまで雨が入ってきました。風もたいへん強く，テントがぐいぐいひっぱられてしまいます。

「今晩はテントなしでねなければならない」とお父さんにあきらめて言いました。

「お父さんやお母んはどこでねるの」とトミーがたずねました。「荷車は穀物や麦でいっぱいだからだれもねられないよ。おまえとベッツィとお母さんはむこうの荷車で休みなさい。私は荷車の下でねるから」とお父さんは言いました。

トミーは静かに「ぼくは荷車の下でねるよ」と答えました。

お父さんはトミーの言ったことにすぐ答えませんでしたがトミーはお父さんが手をおしつけたので自分の言ったことをうれしく思っているのがわかりました。お父さんは静かに言いました。「まつの木を集めよう。車がしずまないように下にしくんだ。」

はだをさすようなはげしい雨の中でまつの木を切るのはたいへんなことでした。ですから木がたくさん集まったときはうれしくてたまりませんでした。トミーとお父さんでまつの木を集めたあと，たたんだテントをおき，ベッドをつつめるようにテントの両側を十分にとっておきました。雨がふってもぬれないようにするためです。

ベッドの用意ができてから，トミーはその中にはいりこみました。はじめ，雷の中にひとりでいることはおそろしいことでした。トミーはこれまでこんなに大きい雷のとどろきを聞いたことがありませんでした。いなずまがぱっと光ったときとても近かったので，いなずまが光った木のてっぺんに小さなほのおが見えたくらいでした。彼はたとえ雨がはげしくても，すぐにやむだろうと思っていましたが，こわくてしかたがありませんでした。雷が荷車に落ちたら，ほかの人はどこでねたらいいのだろうと思いました。彼はお父さんを大声で呼んで心をやすめたいと思いましたが，こわがっていることをだれにも知られたくありませんでした。

天のお父さまに助けてくれるようたのもう，と思いました。トミーはそのようにしました。お祈りが答えられて，雷といなずまがやむのを待っていましたが，ちがう方法でお祈りが答えられました。トミーは，こわく感じなくなったのです。

それからは雷が楽しくなりました。それはまるで巨大な花火があちこちにあるように見えたからです。トミーはねむらないでずっと目をさましていたくなりました。それは花火を見のがしたくなかったからでした。しかし雷は一晩中続いていたので，トミーの目はついにとじてしまいました。彼の目は足が水にひたるのを感じるまでは再び開きませんでした。そこで彼はキャンプをしていたすぐそばの小さな小川が夜の間にはげしい流れになり，ゴーゴーうなっているのがわかりました。

はっとしてトミーはお父さんを大声で呼びました。「小川があふれて後の車輪が水の中にはいってしまったよ。」

トミーのお父さんはすぐに荷車から飛び出してきました。彼はそのありさまを見ると，トミーと一緒に荷車の下からベッドを引っぱり出し，それから荷車を水の中から出すために牛をつれてきました。地面がたいへんすべりやすいので，牛はなかなか前に進めません。

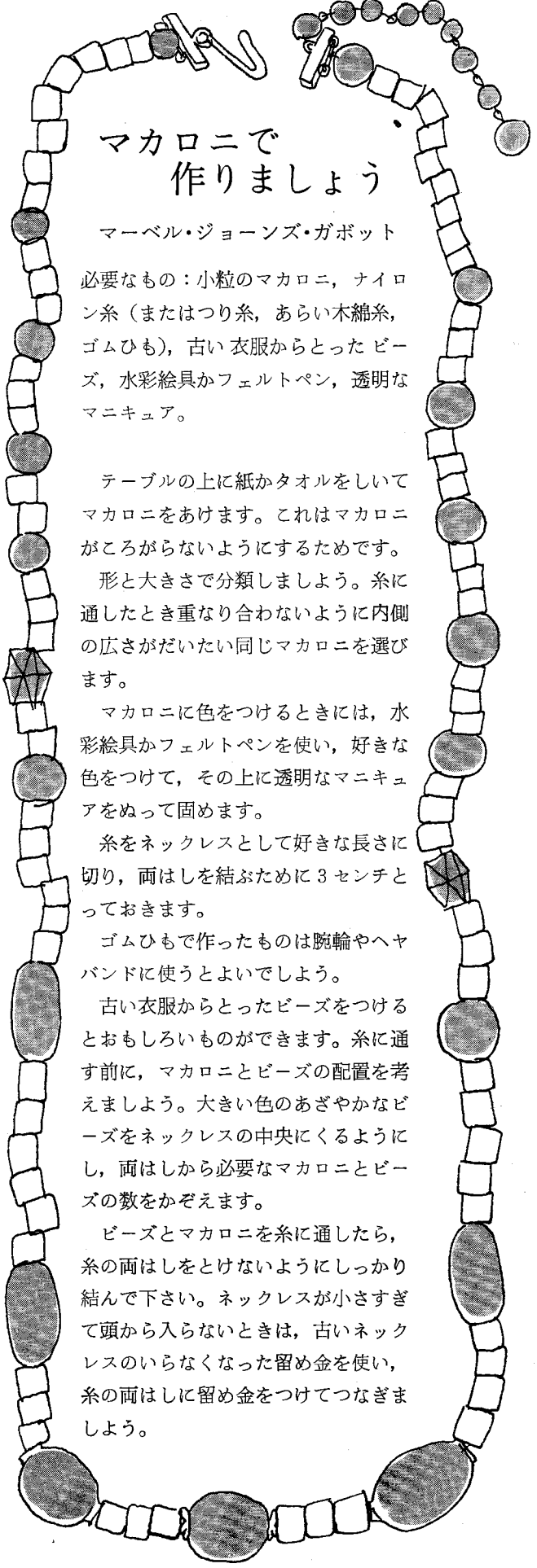
「丸太道を作らなければならないな」とトミーのお父さんは言いました。

こうしてトミーとお父さんはたくさんの木を切りたおしました。枝を整えて丸太をはしから順に並べて行き，荷車の前にも並べました。それからやなぎでそれぞれの丸太をすきまなくしばり，ころがらないようにしました。それらがすんでからその上をかたい草や松葉でおおい，牛のひづめがわれ目に落ちこまないようにしました。

最後に彼らは丸太道の上でおびえている牛をなだめ，荷車につなぎました。お父さんは，やさしい調子で牛に言いました。「そーら，今だ，引くんだ。」

牛はいっしょに引っぱったので，重い荷車の車輪はぬかるみの中から出て，かたい草の上，丸太道の上を通って，イスラエルの陣営がかつて旅をしたような道に出ました。

トミーは「ばんざい，やったぞ！」と叫びました。そのときお母さんは泣いてしまいました。この「ふたりの男」をほんとうにほこらしく思ったからです。



マカロニで作りましょう

マーベル・ジョーンズ・ガボット

必要なもの：小粒のマカロニ，ナイロン糸（またはつり糸，あらい木綿糸，ゴムひも），古い衣服からとったビーズ，水彩絵具かフェルトペン，透明なマニキュア。

テーブルの上に紙かタオルをしいてマカロニをあけます。これはマカロニがころがらないようにするためです。

形と大きさで分類しましょう。糸に通したとき重なり合わないように内側の広さがだいたい同じマカロニを選びます。

マカロニに色をつけるときには，水彩絵具かフェルトペンを使い，好きな色をつけて，その上に透明なマニキュアをぬって固めます。

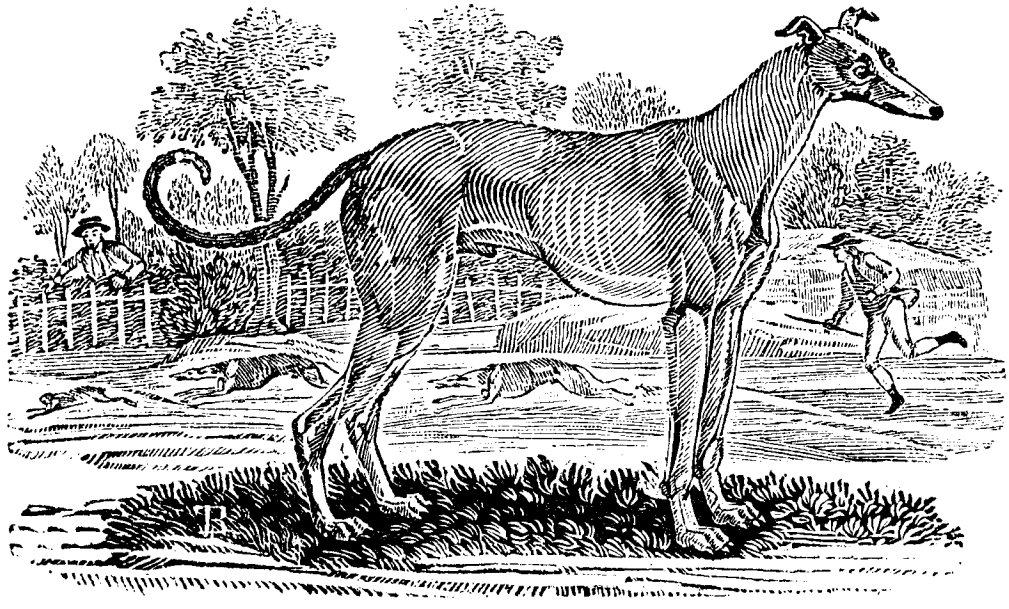
糸をネックレスとして好きな長さに切り，両はしを結ぶために3センチとっておきます。

ゴムひもで作ったものは腕輪やヘヤバンドに使うとよいでしょう。

古い衣服からとったビーズをつけるとおもしろいものができます。糸に通す前に，マカロニとビーズの配置を考えましょう。大きい色のあざやかなビーズをネックレスの中央にくるようにし，両はしから必要なマカロニとビーズの数をかぞえます。

ビーズとマカロニを糸に通したら，糸の両はしをとけないようにしっかり結んで下さい。ネックレスが小さすぎて頭から入らないときは，古いネックレスのいらなくなった留め金を使い，糸の両はしに留め金をつけてつなぎましょう。

最も大切なこと



七十人最高評議員会会員
A・セオドア・タトル

何年か前，私はデゼレト・ニュース紙で「機械じかけのウサギ」という社説を読んだ。その一部を読んでみよう。「英国でグレイハウンド犬がウサギを見てもウサギとわからなかったという先月の話を読んで，ほとんどの読者は笑ったに違いない。長いこと競馬場で機械じかけのウサギを追ってばかりいたため，本物のウサギが柵を越えて飛び込んできても，目もくれなかった。

間の抜けた話ではなかろうか。だが哀れでもある。こんなふうに本能をゆがめられてしまうとは…。

我々も機械じかけのウサギを追っている。

我々は給料の小切手を追いかけまわしても，雪をかぶった山頂に登る朝日には目をくれない。

机上のぎっしりと埋まった予定表に従って仕事をしながら，隣人と話をしたり病人をたずねたりすることはない。

おきまりのにぎやかな娯楽にうち興じながら，無邪気な子供に寝物語をする静かな時間を持とうとはしない。

名声や富を追いながら，我々の道を時折横切って通る真の喜びの機会を見逃している。

ワーズワースはまさにそのような状態について，語っている。

『世界は我々の手に負えない。
おそかれ早かれ，得るのにも使うのにも，自分の力を浪費してしまう。

行け，それ，文明化しすぎた盲目のハウンド犬よ，本物を知らないうちは自分のウサギをつかまえられはしまい。

しかし，おまえには仲間がいる。数限りない人間が，やはり本物を知らないうちは決して喜びを得られはしない』

この言葉は我々へのチャレンジを教えてくれる。『……最も大切なものは最もささいなものに左右されはしない』（アシュレ・モンテギュー）

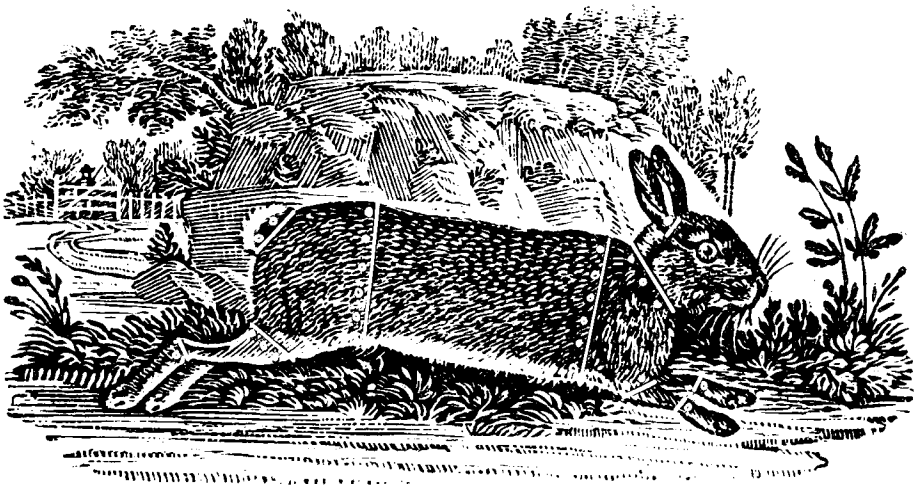
これをこのように語った人がある。『我々は浅薄な物事にあまりに深くかかわりすぎる。』」

近代の啓示で主は言われた。「見よ，召さるる者は多けれども選ばるる者は少し。選ばることなきは，これそもそも何の故ぞ。そは，人々の心甚しくこの世に属けるものの上にあり，唯々人間の誉を得ることをのみ望み…」（教義と聖約121：34，35）

ここに，我々の価値観を正す教えがある。

この勧告にもう一度注意しなさい，「人々の心甚しくこの世に属けるものの上にあり」，心は霊につけるものの上にないのである。そして彼らは神の誉れを望まずして「人間の誉を得ることをのみ望む」。

我々は神の事柄を見失ったり，無視しながら，物質的な物事を「あまりに



も」求めすぎてはいないだろうか。この季節の，また他の季節の美しい自然は人の目にとめられず，感謝を呼ばない。

クリスチャンの親切な行ないはわきに置かれ，あるいは無になって，我々の生活はスケジュールや予定に追われている。

最もはなはだしい背徳行為は，おそらく家庭で起きる。我々はこの世の富を追いかけては，自分のいたいけな子供たちを無視するのである。あなたはいつ子供たちに物語をしてあげただろうか。息子と一緒にいつ釣りや狩りに行っただろうか。賞を受ける手伝いをしただろうか。達成プログラムについて相談に乗ってあげただろうか。

現代の若者の直面する試練，すなわちぜいたくと楽な暮らしの試練は，どの年代にとっても一番厳しい試練であろう。兄弟姉妹たち，自分の子供たちといつも近くにいなさい。彼らを安全に導きなさい。この時代は危険な時代である。いっそう注意を向けなさい。いっそうの努力をしなさい。

我々の社会問題を解決する責任は家庭にある。若人は安全を求めている。彼らの求めている答えは，ただ良い家庭にのみ見出されるのである。国内あるいは国家間の条約は平和をもたらすことができない。どの立法府も法廷も我々の問題を解いてはくれない。問題の解決は家々の門からやってくるのである。救い主の教えられた原則により幸福と平和が家族にもたらされる。若者は家庭の中で，幸福を見出す力を受けるのである。

世には偽りの考えが満ちている。その誤った考え方が主の目的をおおい隠し，間違いを犯している。ある者は両性に神の与えたもうた役割を変えようとし，母親に家庭をおいて働きに出よと勧め，また父親に家族と別に娯楽を楽しめと誘う。このような当てにならない行動が家庭を弱くしているのである。

ある父親たちは，立派な家，衣服，車，食物を家族に提供しながら，本当の父親とは何かということを忘れている。父親とは，愛と理解の関係である。父親らしさとは，力や男らしさや誉れである。それは力であり行ないである。助言であり指導である。父親とは，家族と共にいる人である。権威であり，模範である。

パッカー長老は次のように勧告している。「多くの父親は子供の物的な世話だけに心を奪われている。この世の状態にあわせてこの世のために貯える保証は，消えてしまうことがある。おそらくは消えることであろう。子供を真に保護するためには，彼らにしあわせな家庭生活の思い出を与えなさい。それは模範となり，彼らの従う青写真，彼らの造り出す形，彼らが実現する理想となる。」

あなたの家庭に健全な雰囲気を造りあげなさい。求める人たちの成長と進歩のために，家族が支えとなるように。

母親たちの中には，自分勝手な目的のため，あるいは必要に迫られて，外へ仕事に出る人々がある。そのようにして家庭は弱くなり，本当の父親，本当の母親というものがすぐに消えてしまうのである。この事実をよくみつめなさい。父親や母親が負うべき責任をおろそかにすることは，我々の社会に

乱れた状態を作り出している。我々は末日聖徒として，我々の家庭に押し寄せる，世の荒波を押し返さねばならない。我々の多くは，悔い改めねばならない。我々の価値観を正さなければならない。時間と心と手段を最も大切なものに向けなさい。冷静に自己を反省する時，真の価値がどこにあるかを知らない人はいないであろう。しかし，それを正しい位置に保つには，目ざめさせてくれるものが必要である。

ベンジャミン王は両親たちに勧めている，「お前たちは，自分の子供らを飢えさせたりはだかのまま置いたりはしないであろう。またお前たちは自分の子供らが神の律法に背き互いに争ったり戦ったりして……悪魔に仕えることを許さず，……自分の子供らに真の道を行なう事と真面目でなければならぬ事と互いに愛し互いに助けねばならぬ事とを教えるであろう」。（モーサヤ4：14—15）

主は両親に，子供を教える責任を課せられた。それは言葉で教える以上のことである。子供たちに価値あるものを教えるより良い方法がある。

たとえば，結婚した人の半分が離婚するということを暗黙のうちに了解している社会にあっては，家族の団結の原則を教えることは実に困難である。

崩壊した家庭の子供たちは，家族では問題を解決できるものではないという考えを身につけていることが少なくない。テレビばかりを楽しみにしている子供は，積極的に生活する気持を喪失している場合がある。事故現場でいあわせた医師に手当を頼み込んでいる時に，子供に奉仕と責任について教えようとしてもむずかしい。

世の物をためこむことが大切で，そのために，父親が助言したり励ましたりして子供といっしょにいる時間を惜しみ，度を過ぎて働いている家庭や，母親が子供をかまわずにさらに多くの「物」を得ようと働きに出ている家庭にあっては，愛や犠牲といった立場から人間の価値について教えることも，まったく空しい。

主は言われた，「われは汝らの小児たちを光明と真理の中に導き来れと汝らに命じたり」。（教義と聖約93：40）

ポール・ポペノウ博士はこのように言っている。「わが若人たちは自分の生活の所産ではなく，両親から与えられたものの所産である。もし我々が両親に立派な模範を示させられるものなら，各世代の一番大きな障害物をとりのけられることであろう。」

主は，「子をその行くべき道に従って教えよ，そうすれば年老いても，それを離れることがない」（箴言22：6）と言われた。

我々は，おそすぎないうちに，リチャード・L・エバンス長老の語ったこの真理を知らなくてはならない。「健康的でしあわせな家庭以上に社会の病弊をいやす薬はない。愛と理解に富んだ家族以上に社会を強固にするものはない。賢く愛情深く責任感のある両親の身近な信頼ほどに，子供を幸福へ導くものはなかった。」（「とびらの中から」より）

私は賢く愛情深く責任感のある両親のもとで育った。私が家に帰った時には，ダン兄弟の御両親のように，やさしい母がいつも起きて待っていた。いつでも話をしたり報告をする機会があった。そのような機会は最も楽しい思い出である。その家庭で，私は今日持っている証をはぐくまれたのである。私は神が生きておられ，イエスがキリストであり，我々の救い主，贖い主であることを知っている。ジョセフ・スミスが神の予言者であったこと，ジョセフ・フィールディング・スミス大管長が王国の鍵を持つ現在の生ける予言者であること，そして，もし我々がこの大会で話された勧告に従うならば，我々の家庭はより良いものとなり，我々の奉仕もさらに力を増し，喜びが大きくなることを知っている。イエス・キリストのみ名により，アーメン。

主の予言者

アーサー・R・バセット

「主の予言者」―― 我々は，長いゆったりした衣を着てひげをはやした，砂漠に住む人から，現代の教会の大管長に至るまで，この称号からいろいろな姿を心に浮かべる。

その言葉は，アダムやアブラハムのような尊敬すべき族長，エノクや愛弟子ヨハネ，ロレンゾ・スノーのように感受性の強い心の持ち主，モーセやブリガム・ヤングのような活気ある，がん健な指導者を思い出させる。また，パウロやアルマのような改革家，イザヤやジョセフ・スミスのように幾年にもわたって予言の示現を受けた人々を思い出させる。

予言者はみな違っており，それぞれ独自のものを備えている。しかし，1つの重要な点においては似通っている。その点とは，彼らの人生の中心となるもの，すなわち神の御子イエス・キリストただ御一人に対する彼らの信仰，信頼，望みである。

予言者という言葉には幾つかの意味がある。しかし，「予言のみたまを持っている人」という定義以上に適切なものはない。愛弟子ヨハネによれば，「イエスのあかしは，すなわち預言の霊である。」(黙示19：10)

この点に注目すると，我々は，予言者がキリストの個性のある小面を映し出す人であると考えることができよう。しかし，総体的に考えると，予言者はいろいろな人生のあり方を生き生きと，しかも熱意をもってしっかりと学ぶように告げる人である。

この時代にも多くの予言者がいる。大管長会および十二使徒評議員会で働いている人々，ならびに大祝福師はみな，予言者として支持されている。しかし，若干の人々のみが予言者として働いている。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長はこのように書いている。

「使徒は，聖任される時に，ジョセフ・スミスが死ぬ前に使徒たちに与えたすべての鍵と権能を確認されている。しかし，これらの兄弟たちは，大管長会に入る機会が与えられる時までそれらの権能を行使できない。その時までは，その権威は休止状態にあるのである。彼らが，教会の予言者，聖見者，啓示を受ける者として支持されながら，教会のために啓示を受ける人（大管長）は同時期にただ1人しかいないのはこの理由による。神権のすべての鍵は彼に与えられており，彼の指示によって委譲される。」

明らかに，このような人は特別の資格を持ち，また主の同意を受けた人でなければならない。これは確かに大切な点である。なぜなら，これは特別に主により頼む召しだからである。先任使徒となり，やがて大管長となれるように，天父は予言者の命は守りたもうに違いないのである。

大管長が亡くなると，大管長会は解散され，十二使徒評議員会が自動的に教会の管理会となる。そしてその後，十二使徒評議員会の会長が大管長となる。ブリガム・ヤングは，新しい大管長会が組織される以前，3年以上の間，十二使徒評議員会会長として教会を管理した。ジョン・テイラーも，その職で3年間教会を管理した。ウィルフォード・ウッドラフも2年間そうであった。この召しにおいては，大管長会として2人の副管長と共に管理していた時と同様に，彼らは予言者であり，主の代弁者であった。大管長となるためには，十二使徒評議員会会長であること以上に，彼への特別な啓示が必要であると言われている。ウッドラフ大管長は，ヒーバー・J・グラント宛に次のような手紙を書いた。（1887年3月28日）

「私に関する限り，教会を組織されまた経路を通して啓示を与えてそれを導いてこられた，神からの啓示が必要です。教会はその経路を通して57年間存続してきました。そのような啓示があって初めて，私は教会の設立以来使徒たちがたどってきた道を経て新たに働きかけることができるのです……」

このようにして，予言者から予言者へ外套は秩序正しく受け継がれている。それは「主のみ業に大きな混乱と挫折をもたらす原因となり得る，政略的計画や革命的方法が用いられるのを避けるために，独自の手順と聖任の方法に従って」行なわれるのである。

この神権時代に教会を管理してきた10人の大管長は，それぞれに偉大な成長をとげた人々であった。それぞれ特別な貢献をなし，申し分ない人であり，それぞれ独自の務めを果たすために若い頃より召され，備えられていた。また，各世代の若者に慕われ，あらゆる時代の若者に伝えるべき何かをもって

いた。

そこで，次号からの聖徒の道には，この神権時代の10人の予言者１人１人についての記事を連載し，今日の若者の生き方に最も合った各予言者の生き方に焦点をあてることにする。彼らは人生の問題を苦労して解決し，チャレンジに立ち向かって，生涯を実りあるものとした。また多くの点で，彼らの人生は今日の我々の人生よりも困難なものであった。なぜなら，彼らはみなある意味ではアメリカ開拓者の所産だからである。ブリガム・ヤング大管長の時代に生まれたジョセフ・フィールディング・スミス大管長さえもそうである。

彼らは艱難を体験した。貧困や労苦を体験し，我々と同様に試みにも遭った。しかし，彼らは特別な人であり，神はまだ若い内にそれぞれに彼らの重要さを伝えられた。神は彼らの心とその望みを知っておられ，さらに大切なことであるが，彼らは神を知っていたのである。御子イエス・キリストは彼らの生活の中心となった。このこととといつもイエスを覚え，戒めを守りたいという望みによって，彼らはやがて地上における主の代弁者となる資格を得たのである。

ジョセフ・スミスが14歳を過ぎたばかりの時，すなわち，おとなへの過渡期で，多くの問題が引き続き生ずる最もむずかしい年令の時に，御父と御子は彼に現われたもうた。彼は御二方の前に立つように告げられ，忠実さを保つように勧告された。

ジョセフは，どの教会にも加わらないように告げられ，そのほかに数々の教えを受けた。また「他に多くの事を真実私に告げたもうたが，この度はそれを誌すことができない」という一節にあるように他の事柄をも告げられた。若い頃にこの出来事があったのでジョセフは時として「少年予言者」と呼ばれる。しかし，さらにその称号に注意を向ける必要がある。神権を与えられた時，ジョセフは24歳であった。それは帰還宣教師や大学卒業者と同じ位の年令である。つまり，彼は準備するように若い時に召されたのである。しかし，時間と経験のみが，教会の評議員会で管理をする際に必要な成長を実際にもたらすのである。

その年令でも，そのような召しに就くにはジョセフは非常に若かった。彼が教会の第一の長老となったのは25歳の時であり，最初の大管長会が組織された時には，28回目の誕生日から３カ月も過ぎていなかった。ブリガム・ヤングは43歳で主の代弁者となった。また，ジョン・テイラーからデビド・O・マッケイまでは，大管長は62歳から84歳の間にその任に就き，79歳から96歳の間に亡くなっている。予言者の平均寿命は79歳である。それについて，スペンサー・W・キンボール長老は語っている。

「我々は，大管長がいつも高齢者であるように望む。若い人は行動的で，活気があり，指導力がある。しかし，年を取った人には，経験と神との長い間の交通により，安定感と強さと知恵がある。」

ジョセフ・スミスは珍しくその例外であった。彼はこの神権時代を開くために神から選ばれた特別な職をもつ予言者であったからである。

ブリガム・ヤングもまた若い時にその指導力を買われた。彼は31歳で教会に改宗し，オハイオ州カートランドにいる予言者ジョセフ・スミスを訪れた。ジョセフがカートランドの近くの森で木を切り，それを運んでいた時にブリガムは初めてジョセフに会った。その晩，特別な集会が開かれ，この２人が出席した。ブリガム・ヤングは後日このように語った。

「その晩，少数の人々が集まり，我々は王国の事柄について一緒に話し合いました。彼（予言者）は私に祈るように言いました。すると，私は異言によって祈ったのです。祈り終えて立ち上がると，兄弟たちは彼のまわりに集まって，私に現わされた異言の賜について彼に意見を求めました。彼は皆にそれは純粋なアダムの言葉であると言

「アブラハム」（レンブラント）

いました。ある兄弟は彼に，ブリガム兄弟が持っている賜を取り上げるようにみんな望んでいると言いました。するとジョセフは言いました。『いや，それは神の賜です。ブリガム・ヤング兄弟がこの教会を管理する時が来るでしょう。』 この会話の後半は，私が席をはずした時に交わされました。」

このように，主は12年前にその計画を示された。主の目はすでにブリガムの上に注がれており，生涯彼を見守り導かれた。しかし，ブリガム・ヤングは多くの教訓を学んだ。その後の12年間は試しと困難な問題に満ちていた。しかし，すべては良い結果に至ったのである。

ジョン・テイラーも若い時に選ばれた。彼は他の教会指導者たちとは別の十分な背景があった。主は教会のほかの使徒たちと彼を会わせる方法をもって，静かに彼に働きかけたもうた。若干16歳の時，ジョン・テイラーは，主を求めることに多くの時間を費やすように動かされた。そして，主が彼の近くにおられることがしばしば示された。「しばしば独りの時に，また時にはほかの人と一緒の時でさえ，天使あるいは自然を超越した方が奏でるごとき，美しく，静かで，妙なる音楽が私に聞こえた」と，彼は書いている。

まだ少年の時，彼は口にラッパをあてて国々に福音のおとずれを伝えている天の御使いを見た。（この示現のすばらしさは全教会員に明らかである）17歳の時，彼はメソジスト教会の地方説教者となった。そしてある日，友人とメソジスト教会の集会に出かけた時アメリカに行って宣教しなければならないという非常に強い気持に駆られた。そのほぼ7年後の24歳の時，テイラー大管長はパーレイ・P・プラットの手により教会に入った。パーレイはジョン・テイラーが住んでいた，カナダのトロントへ福音を携えて行くよう特別な啓示によって召されたのである。

ウィルフォード・ウッドラフへの知らせは，教会員でなかったロバート・メイソンという名の親友から与えられた。福音の回復前に，幾人かの人々は近づいた回復を知らせる数々の現われを受けていた。ロバート・メイソンもその1人である。彼はウィルフォード・ウッドラフに，自分自身は神権を持つ人々に会って，その儀式に与るまでは生きないけれども，ウィルフォードは「新しい王国の傑出した働き手」になるだろうと告げた。これは，ウィルフォード・ウッドラフがまだ23歳の時のことである。それから4年経たないうちに，ウィルフォード・ウッドラフはバプテスマの水に入った。そしてその時から，将来のために彼を備える無数のその他の霊的な確認が受けられた。

ロレンゾ・スノーの場合には，主は大祝福師であるジョセフ・スミス・Sr.によって頭上に宣言された祝福師の祝福の形で話されたのが初めである。当時，ロレンゾは22歳であった。その祝福はすばらしく，また力強くわかりやすいものである。

「あなたの時代に進み行く大いなる業にあなたは従事する。神は福音を宣べる者としてあなたを召された。あなたは救い主の福音を地に住む民に宣べ伝えなければならない。あなたは，〔その経験に照らしてみてすばらしい人である〕ジェレドの兄弟の信仰にも匹敵する信仰を持つであろう……あなたに勝る強さの人は地にいなくなるであろう……病人がひざ掛けやハンカチをあなたのもとに送り，あなたがそれに触れると，その持ち主は癒えるであろう。あなたは汚れた霊に勝る力を持つであろう。すなわち，あなたの命により，闇の力は退き，悪霊は逃げ去るであろう。機宜を得たものであれば，あなたの命により死者が蘇生し，出で来るであろう……あなたは長寿を保つであろう。あなたの心の活気は衰えることなく，体の強さは保たれるであろう。」

スノー大管長の命は，一度ならず守られた。彼は長生きし，84歳で大管長会に入った。主はそのことを彼がまだ若い内に祝福師を通して告げておられた。彼のなした準備は，晩年の仕事に耐えられるようにするためのものであった。

スノー大管長は，ジョセフ・F・スミスの予言者としての将来の召しを直接に予言した最初の人である。しかしスノー大管長が予言するずっと以前から，ジョセフ・F・スミスの上に神のみ手があったことは明らかである。ジョセフ・F・スミスは叔父のジョセフ・スミスを除いて，予言者の内で最も厳しい訓練を受けた人である。

わずか15歳の時に，彼はハワイ諸島で伝道するように召された。さらにハワイから戻った9年後，ロレンゾ・スノーおよびその他の人々と共に，教会の指導者からある重要な使命を受けて送り返された。島の岸に向かう途中でスノー大管長の乗っていたボートが転覆し，彼は溺死したかのように見えた。しかし，彼は神権の助けによって蘇生した。そして，主が彼にジョセフ・F・スミスはいつか主の予言者になることを示してくださったと語った。

これは，そのことが事実となる37年前のことである。ジョセフ・F・スミスは当時26歳であり，主は彼の将来を心に掛けておられたのである。

しかし，ヒーバー・J・グラントほどはっきりとその将来を告げ知らされた予言者はいない。彼は幼少の頃，たびたび母親と一緒に扶助協会に出席していた。そのようなある日，定例集会を終えた後に，ロレンゾ・スノー大管長の姉であるエライザ・R・スノーが異言の賜によって出席者全員に祝福を与え，ザイナ・D・ヤングが通訳した。スノー姉妹はまた，ヒーバー・J・グラントがいつか主の使徒になるであろうと異言で予言した。また別な折に，

ジョセフ・スミス
（マホライ・ヤング）

グラント大管長の父親の親友である，ヒーバー・C・キンボール副管長は，ヒーバー少年を抱きあげて椅子にすわらせ，彼と話をした。グラント大管長の母は，後に次のように語っている。

「あなたも知っているように，あなたのお父さんはブリガム・ヤングの副管長になりました。しかし，あなた〔ヒーバー〕は主イエス・キリストの使徒になり，あなた自身のお父さんよりも教会で偉大な人となるでしょう」と主イエス・キリストのみ名によって予言されました。

しかし，グラント大管長にとってはこれらの予言も，1883年に使徒職に召されたすぐ後に受けた示現に勝るほど印象的なものではなかった。彼はこの示現で，父親のジェデディア・グラントと予言者ジョセフ・スミスと救い主を見た。また，十二使徒評議員会への召しのために啓示を与えようと決定される場面をも見た。この時，彼は26歳であった。

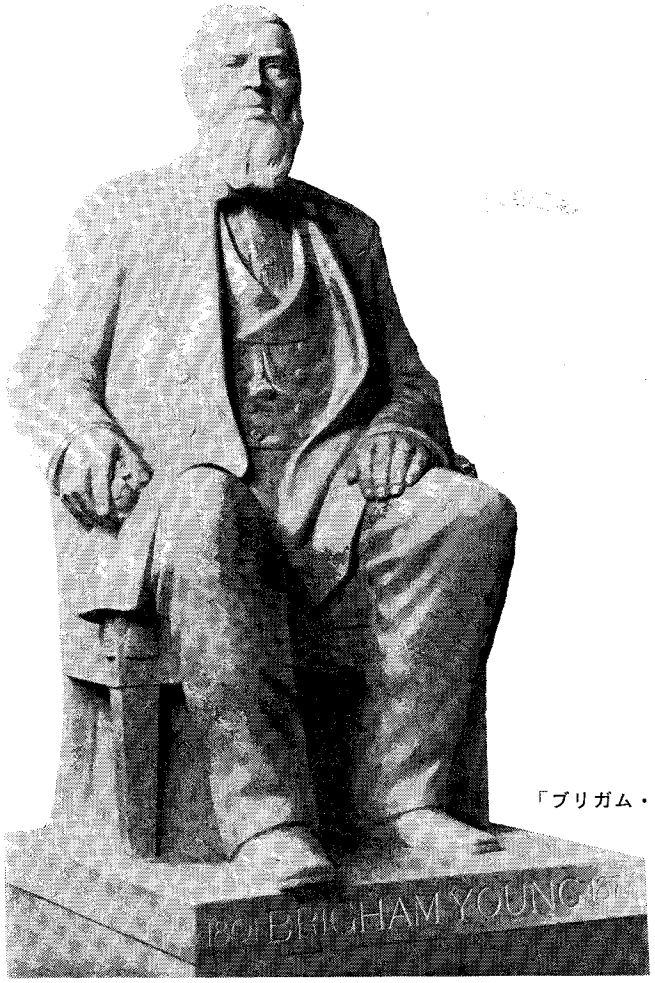
ジョージ・アルバート・スミスに告げ知らせるために，主は再び祝福師の祝福を用いられた。祝福師がスミス大管長の頭に手を按いて，祝福を宣言した時，この若者はわずか14歳であった。

「……あなたはシオンの子らの唯中にあって力強い予言者となるであろう。また，主の御使いはあなたに導きと恵みを施し，天の選抜きの祝福があなたの上に留まるであろう。

あなたは天の示現に取り巻かれ，また外套のごとくに救いをまとうであろう。なぜなら，あなたは主の前に力ある者となる定めにあるからである。あなたは教会すなわち地上における神の王国の力強い使徒になるであろう。あなたの父の家族はだれも，あなたが持つ以上の神の力を持たないであろう。あなたに勝る者はなくなるであろう……また，あなたはジェレドの兄弟のごとくに，主の御前に強い信仰ある者となるであろう〔ロレンゾ・スノーに与えられた約束に似ていることに注意〕。あなたは人生に満足を見出すまで地上に留まるであろう。そして，あなたは主の油注がれた者と共に数えられ，いと高き者に通ずる王となり，祭司となるであろう……」

この祝福は，スミス大管長の先祖に心を向ける時に，さらに広い視野を与える。彼の父ジョン・ヘンリー・スミスは使徒であり，ジョセフ・F・スミス大管長の副管長であった。また祖父のジョージ・A・スミスも使徒でありブリガム・ヤング大管長と共に大管長会で働いた。ジョセフ・スミス・Sr.の弟であり，スミス大管長の曾祖父であるジョン・スミスは，ハイラム・スミスの息子が成長するまでの数年間，大祝福師であった。このことに心を留めると，与えられた祝福は特に興味深いものとなる。「……あなたの父の家族はだれも，あなたが持つ以上の神の力を持たないであろう。あなたに勝る者はなくなるであろう。」この言葉がジョージ・アルバート・スミスに与えられたのは，彼が14歳の時であることに注意しなさい。それはジョセフ・スミスが最初の示現を受けた年令と同じである。

デビド・O・マッケイも，若い時に将来の責任を告げ知らされた。宣教師の時，彼はホームシックになり，悄然としていた。デビドは，この人生の転換時に至って，失意に打ち負かされそうであった。しかし，ある宣教師の集会が開かれた折，特に主の「みたま」



「ブリガム・ヤング」（マホライ・ヤング）

「パウロ」（レンブラント）

が豊かにそそがれた。伝道部長はその部屋に天使が訪れていることを認め，また予言のみたまによって若いマッケイ長老に語った。「デビド兄弟，サタンはあなたを麦のようにふるいにかけることを願いました。しかし，神はあなたを心にかけておられます。」さらに続けた。「もし信仰を保つなら，あなたはやがて教会の管理評議員会に名を連らねるでしょう。」

この言葉だけであった。しかし，若いデビドにとって，これは遠いが，しかし大切な目標となった。またこの言葉は20歳初めの宣教師への予告としては十分であり，彼を鼓舞し，失望した時の助けとなるに足りるものであった。やがて，他の予言者と同じように，彼は主の代弁者に選ばれた。

最後に，ジョセフ・フィールディング・スミスも，祖父ハイラム・スミスの息子である大祝福師ジョン・スミスから力強い祝福師の祝福を受けた。

「あなたはシオンの子らの中に教えられ，多くのことが期待される。あなたの名は小羊の生命の書に書かれており，また兄弟たちと共に先祖の記録に誌されるであろう。あなたは健康に長寿を全うする特権に与る。また主のみ旨により，イスラエルの中で力ある者となるであろう……過去の経験から知恵を得るならば，義のために主のみ手があなたの上にかつてあり，現在あること，また賢い目的のために命が守られてきたことを認めるであろう。さらに，地上での使命を完全に果たすために多くのなすべきことがあることも認めるであろう。兄弟たちと評議員会の座に着き，人々の中で管理する義務を負うであろう。また，国の内外，地の面と水の面を問わず，聖なる務めをなすために多くの旅をする責任に着くであろう。」

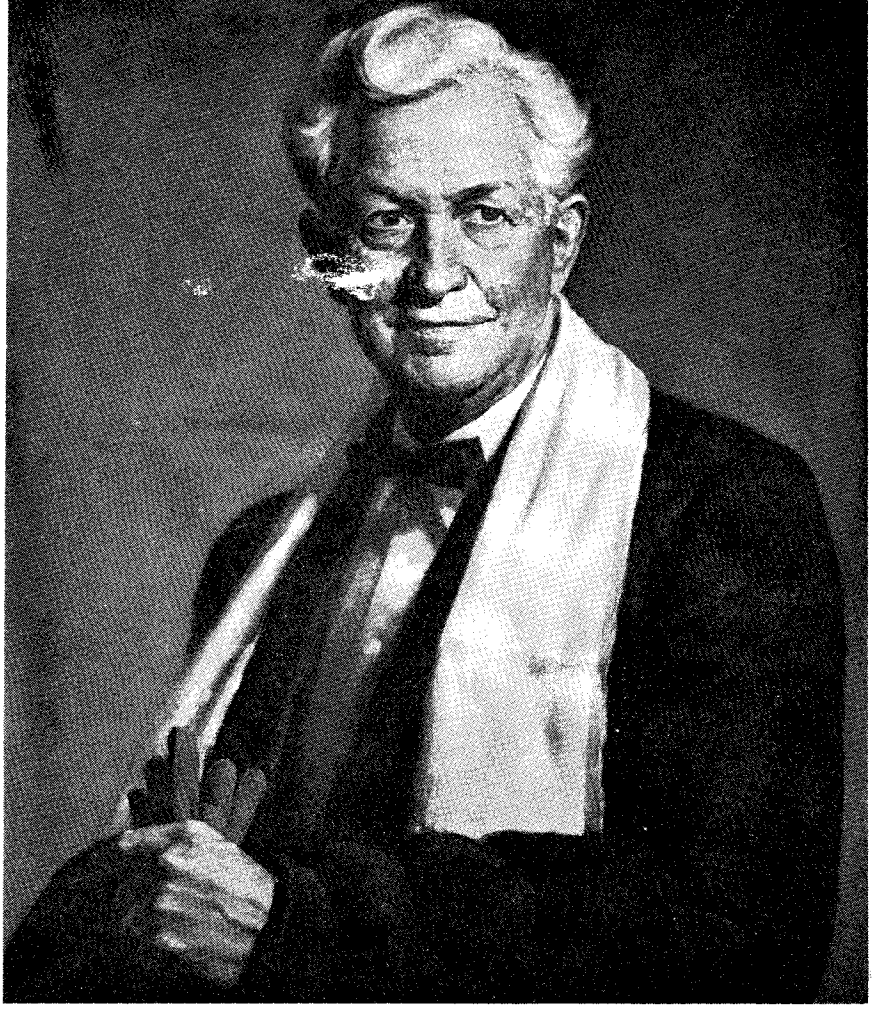
60年間，我々の大管長は忠実に十二使徒評議員会の一員として働き，大管長の任が与えられるまで，予言者たちを支持し助けてきた。そしてやがて，大神権の長，すなわち主の予言者の職に着いた。

これらの予言者はそれぞれ多くの点で違っている。またこれが本来の姿である。オルソン・ホイットニー長老はかつてこのように述べた。

「……歴代の大管長がそれぞれ，その尊く聖い職に着いた他の人とある点で違っているのが当然である。それは次の理由による。主のみ業はいつも進展しており，変化し続けている。ただ

し，その原則や目的でなく，その計画と手段と扱い方が変わっているのである。これらは，新しい状況を満たし，それより益を得るために変わっている。きょうはきのうではなく，あすはきょうではない。主は，賢明にして崇高な目的を達するために，いつでもみ業が最も良く果たせるように人と手段を備えられる。時代が経過する時にはいつでもその時代に合った人が備えられるであろう。」

各予言者は，教会の成長と発展にそれぞれ独自の力を与えてきた。そして彼らの在任中に，教会はすばらしい前進をなした。予言者が代るからすべてが変わると暗に言うことは，主のみ業に力を貸す資格ある人々を軽んずることである。実際には，主は特別な目的のために各予言者を選ばれるので，各予言者は在任中に教会の発展に容易に寄与し得るのである。



「デビド・O・マッケイ」（アルビン・ギティンズ）

ジョセフ・スミスの時に，地上における神の王国の基と体系が築かれた。ジョセフは救い主に教会員の心を向けさせ，歴史中で最も大切な将来の出来事である主の再臨を伝えた。主はジョセフを通じて，主の再臨に対して心を備えさせるために何をすべきか民に告げられた。在任中の14年間にジョセフはこの王国の基を据え，日の栄の原則に基づく都市をイリノイ州ノーヴーに築いた。

ブリガム・ヤングは合衆国西部に教会を移し，シオンの境を広げた。またキリストの王国を聖徒たちの心にある第一のものとするよう，力の限りを尽くして励ました。

ジョン・テイラーの時には，神権組織が整えられた。ステーキ部が従来より強固に組織され，各ステーキ部長により大きな責任が課せられるようになった。不屈の精神を持つテイラー大管長は，教会史上最も困難な時代に教会を管理するにふさわしい人であった。当時合衆国政府は，ユタ州と多妻結婚の実施に対して政治上の抗争を指示した。

公式宣言と多妻結婚の中止によって町に再び平和が戻った。また，建築に40年を費やしたソルトレーク神殿が完成し，霊的に献身する時が再び訪れた。神殿事業と系図事業に多くの時間を費やしたウィルフォード・ウッドラフは，この時期に管理するにふさわしい人であった。

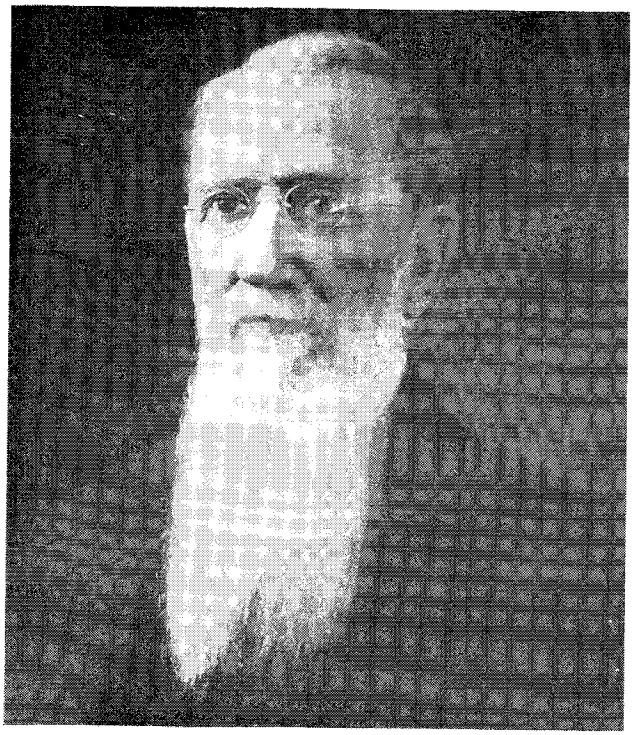
ロレンゾ・スノーの在任期間はわずか3年である。しかし，この期間は世紀の換わる大切な時であった。法廷訴訟と全国的不況によって，教会の財政は大きな打撃を受けた。ロレンゾ・スノーは在任期間中，教会の多くの財政問題を解決する働きをした。彼は，マウント・ピスガの小さな町を財政的に自立させて，ブリガム・ヤングを驚かせていた。またその後，ブリガム市でも，社会建設者としての能力にヤング大管長の注意を向けさせた。そしてついに彼は，「天の窓」という教会の映画に描かれているように，什分の一を復興する大切な務めを受けたのである。スノー大管長はすぐれた社会建設者以上の人であった。彼は偉大な先見の明を持つ人であり，最も教養ある人であった。新しい世紀の始めにあたって，彼はキリストの定められた生き方に従って導かれる20世紀の人の可能性に教会員の目を向けさせた。

ジョセフ・F・スミスの時代は，探

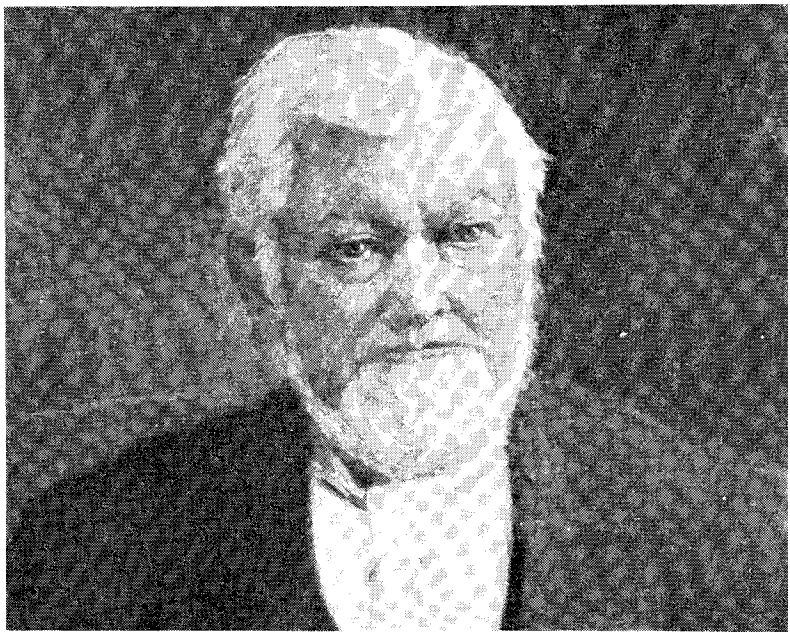
険と実験の時代として知られている。またその時代に，本当の意味で，現代のコーリレーション・プログラムの第一歩が始まった。家庭の夕べ，神権者の責任，補助組織の確立が，1901年から第一次世界大戦終了時の1918年までの間に行なわれた。

第一次世界大戦後の数年間は困難な期間であった。酒類製造販売の禁止とその結果生じた感情の衝突，および不況と世界大戦がアメリカで起こったのは，ほとんどこの時期であり，しかも教会の数が最も多いところで起こった。ヒーバー・J・グラントは，堅い意志をもつ人であり，当時の教会のすばらしい指導者である。その結果，福祉計画と関連あるプログラムがその時期から教会で取り入れられた。

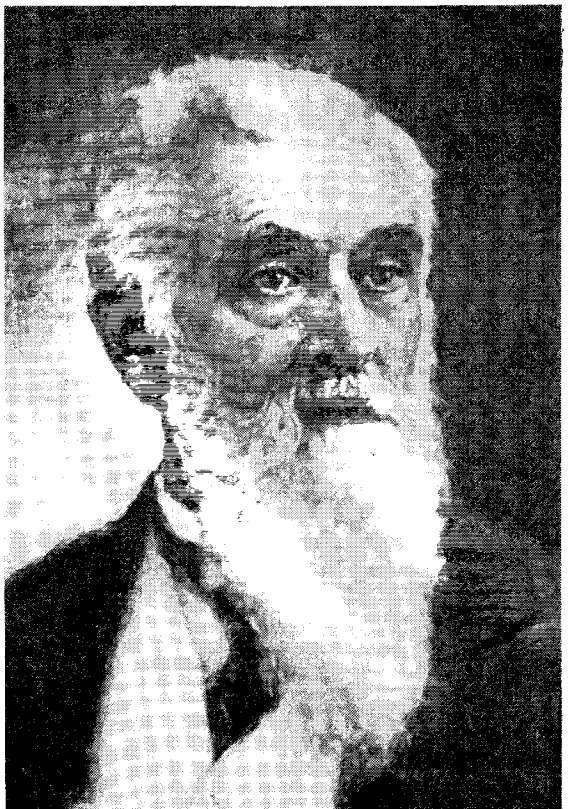
第二次世界大戦の終結と共に，教会員にとって世界に出て行く機会が多く



「ジョセフ・F・スミス」（ルイス・R・ラムジー）



「ウィルフォード・ウッドラフ」



「ロレンゾ・スノー」（ジョン・クラウソン）

「ジョン・テイラー」（ジョン・クラウソン）

「ジョージ・アルバート・スミス」（リー・グリーン・リチャーズ）

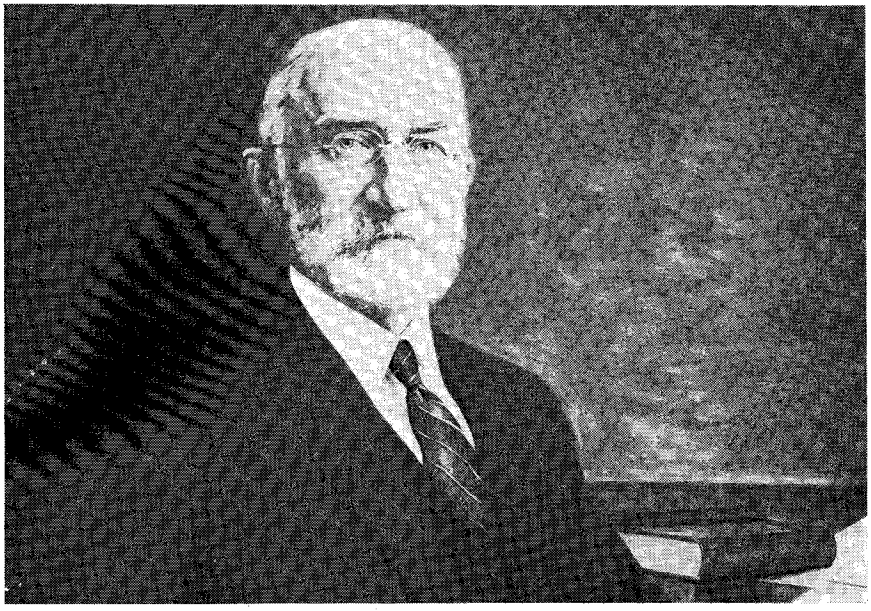
なった。そこで教会員は，ジョージ・アルバート・スミスの時に，教会の立場を明らかにするように備えられた。スミス大管長は，いかなる地に住んでいようとも「すべての人は神の子ら」であるという愛を抱いていた。スミス大管長は，我々の受け嗣ぎに多大の関心を寄せ，教会の史跡を開発することによって，非常に巧みに過去を引き出した。また，世に我々の状態を示すために将来にも踏み込んだ。

マッケイ大管長は，世界の諸国を広く旅した最初の使徒であり，世界にその道が開かれる時に教会を管理するにふさわしい人であった。この教養ある上品な予言者は，親しく国の指導者とと会い，またどこの地の教会員に対しても安らかな気持ちと威厳を伝えた。またデビド・O・マッケイの時代に教会コーリレーション委員会が設けられ神権プログラムとしてその大きな仕事が始まった。このマッケイ大管長は，実に学識があり，キリストのような精神をもって進む人であった。

教会が最も急激に発展している現在スミス大管長が教会の長に立っている。新しいステーキ部が文字通り地に散在し始め，毎週新しいプログラムが取り入れられている。我々は何千もの人々が教会に入って福音の祝福を享受するのを幸せな気持ちで見ている。しかし成長に伴なう我々の目標は，人々を救い主と1対1の関係にすることである。これは，よく祈り，断食し，学ぶという，個人の努力によってのみ達成できる。スミス大管長は救い主の学徒として，我々の最前列に立っている。彼は我々に努力がいつも必要であることを思い出させてくれる。

要約すれば，各大管長は各自の召しのためにそれぞれの訓練を受けてきたのである。J・ルーベン・クラーク・Jr. 副管長はある時このように述べた。「神は……昔のモーセから現代まで，かつて召されたすべての人をその民の頭にふさわしくさせたもうた。」

次号からの記事は，これらの予言者の記念として載せられるものである。そこでは特に，彼らの青少年期，召しの備え，および我々が直面する問題の対処の仕方が強調される。



「ヒーバー・J・グラント」（C・J・フォックス）

「ジョセフ・フィールディング・スミス」
（リー・グリーン・リチャーズ）

準備の期間を経験した大管長たちのように，我々1人1人も今準備しているのである。これらの記事を読む人の中で，この世での使命を与えられていない人は1人としていない。あなたたちは両親であり，日曜学校教師であり，MIA役員である。ホーム・ティーチャーであり，監督であり，扶助協会会長であり，初等協会教師である。また学者であり，企業の指導者であり，科学者であり，その他多くの務めをもっている。主は，祝福師の祝福やその他多くの方法で，我々がなれる者，なるべき者，なれば祝福される者となるように導きたもう。我々がみな熱心に備え，またこれら10人の予言者が与えられた使命を果たしたごとくに，各自の召しを果たすよう祈る。我々には予言者たちから学ぶことが多い。

「聖徒の道」の目的

現代の騒々しい混乱した闘争の世の中にあって，イエス・キリストの教えほど個人個人に確固とした励みを与えるものはない。しかし残念なことに，キリスト教徒，非キリスト教徒を問わず，世の多くの人々はナザレのイエスによって説かれた原則に少しも浴していないのである。ある人々の中には，貪欲，利己主義，暴力，無情，羨望，憎悪が愛よりももっと自然であると示唆するような証拠が見受けられる。

このような世の悪を，政治や社会，制度のせいにすることはできない。問題を起こし，悪を行ない，多くの同胞に悲惨を招くのは人間である。悪の力を縛る鍵は，人間の心の変化にある。

末日聖徒イエス・キリスト教会こそ人間の心の変化に貢献をなす，今日世にある唯一の最も重要な組織された力である。

確かに教会は単独で善を防御しているわけではないが，地上における神の権能を受けた代表者として，イエスの教えを聞き，心を向けるすべての人々に救いをもたらすために天下独歩の働きをなしている。

これはまじめに，その意味を完全に理解したうえでそう断言しているのである。教会員になっていない人々，あるいは名前だけが会員でその心は離れている人々にとり，これは耳ざわりのするものであろう。排他的で俗物的なさらには狂言的な響きさえするようであるが，事実世界中で300万の人々の信仰を向上させる動機づけとなっている。もちろんそれだけでは確かかどうかはわからない。それは1820年に，少年予言者ジョセフ・スミスに神が現われたその事実によって判明する。またご自分の教会を導くために召した人々に，神が啓示を与えられたことからもそれははっきりする。さらに，神は今日この時代にも御自分に代って業を行なう人々として任命された予言者や使徒たちに，御自分のみこころを示しておられるという事実もその真実性を証明するものである。

現在あなた方が読んでいるこの末日聖徒イエス・キリスト教会の共通機関紙「聖徒の道」は，イエス・キリストの神聖な使命を証し，教会と世の人々に素朴ながらも清いキリストの福音が回復されたことを宣言するという主要な目的で出版される。

「聖徒の道」のもっとはっきりした目的は何だろうか。教会員にとって，「聖徒の道」はどのように真に役立っているだろうか。教会員でない人々にも何か約束がしてあるのだろうか。

これらの質問に対する答えは，1832

年，主がご自分のしもべたちに次のように戒められた言葉に表わされている。

「またわれ汝らに一つの試命を与う。すなわち汝ら互いにこの王国の教義を教ゆべし。汝ら熱心に教えよ……神の王国に就けるすべての事は更に完全に教えらる。また天にも地にも地の下にも関わりあること，またすでに起りたること，今有ること，近く必ず起らんとすること，また国内に有ること，国外にあること，また戦争，諸国民の葛藤，地上に下る審判，而して国々と王国とに就ける知識などもまた然り。」（教義と聖約88：77—79）

これで，「聖徒の道」があなたがたに生涯のいろいろな経験に関係ある真理と光をもたらそうとしている理由が理解できるだろう。そしてこれは世界的な見地でなされているのである。

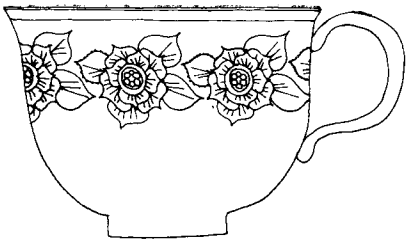
キリストの教会の会員にとって「世にあって世のものとならない」ためには，深い知識と知恵，そして救い主の教えに対する強い信仰が要求される。「聖徒の道」は，主の教会にあって，「聖徒をととのえる」ために活躍する雄々しい力の一端である。

確かに，「聖徒の道」は現状では最優秀品というわけではない。新しい記事がつけ加えられ，変更がなされ，過去においてもそうであったようにこれからもいろいろな方法が取り入れられるであろう。国で出版された古い過去の教会刊行物に今なお執着している人々が，心を開いてくれるようにと我々は望んでいる。また我々の努力に対する建設的な反応を願っている。しかし我々が最も願っていることは，あなた方が知識を得る手段としてこの雑誌を利用するようにということである。「さればもしある人ありて，精励従順によりこの世に於て他の人よりも一層勝れたる知識と英智とを得ば未来の世に於てそれだけ利を得べし」（教義と聖約130：19）

末日聖徒イエス・キリスト教会
月刊雑誌

大管長会
ジョセフ・フィールディング・スミス
ハロルド・B・リー
N・エルドン・タナー

十二使徒評議員会
スペンサー・W・キンボール
エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
デルバート・L・ステイプレー
マリオン・G・ロムニー
リグランド・リチャーズ
ヒュー・B・ブラウン
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン



愛するジョーンへ

今晩，あなたに小さな茶碗を持って来ました。これを見て勇気を出してほしいのです。この茶碗は，前は今のようにつやつやときれいではありませんでした。

はじめに，陶工はこの粘土の茶碗を自信を持って入念にしあげました。彼にとって，この茶碗は自分の心に感じている美の表現だったに違いありません。だから入念に，苦心して作りました。その仕事が完成した時，彼は自分の作品に誇りを感じました。

でも彼は，どんなに一生懸命に作っても，茶碗は粘土の中の不純物を焼いてしまわないと，真の美しさが出ないことを知っていました。彼は身震いしながら茶碗を焼きがまに入れました。多くの茶碗がその熱でこわれてしまったことをよく承知していたからです。彼はじっと辛抱して待ちました。予定の時間が過ぎた時，彼はかまの中をのぞき込み，茶碗が無事にあるのを見て喜びました。茶碗はなんと美しかったことでしょう。

でも，彼の熟練した目は傷をみつけ，満足はできませんでした。彼は茶碗をかまに戻しさらに熱い温度をかけました。彼はまた震えながら待ちました。その茶碗が大好きだったからです。2度目に，茶碗が割れずにあったのを見た時，彼はどんなにうれしかったでしょう。そして粘土がこんなにして洗練されていくのを見て，どんなに喜びを感じたことでしょう。

しかし彼は，また火にかけなくてはならないことを知っていました。彼はこわい気持で茶碗をさらに高温のかまに入れました。ついに彼は茶碗を手にとりました。彼は満足でした。粘土のみにくさはすっかり焼き去られ，茶碗は今まで見たことがなかったような内面の美を現わしていました。

愛するジョーン，あなたが人生の炉に焼かれる時，この小さな茶碗を思い起こして下さい。「陶工」は，あなたの中の真の美しさをひき出そうとしているだけなのだということを，忘れないで下さい。

あなたを愛する母より

十　戒

十二使徒評議員会補助

バーナード・P・ブロックバンク

愛する兄弟姉妹，末日聖徒であることは大きな責任である。神より人に啓示された知識程大切な知識はない。聖書の中の次の聖句を考えてみたい。

「神はまた言われた，『わわれのかたちに，われわれにかたどって人を造り……』神は自分のかたちに人を創造された。すなわち，神のかたちに創造し，男と女とに創造された。」（創世１：26—27）

どの子も，神の子供であって，神の姿，形に似せて作られたことを両親から教えられねばならない。世間はこの真理に飢えている。

神はまた，人を土のちりから作られたと言われた。人の肉体の創造と誕生は神の力の生きた証拠であり，人は誰もそれから言い逃れることはできない。人類が神のような属性を生成発展させるのを助けようと，主は自ら戒めを与えられた。きょう（午後）私は主の十戒を読み，それについて話そうと思う。下等な動物は十戒を知らず，教えもしない。私の家には何匹かの動物がいる。ほとんどのどの被造物よりも色どり豊かできれいなクジャクがいる。クジャクには主の十戒は必要がない。それは下等な動物だからである。十戒は下等な動物に与えられたものではなく，人のために，神の姿，形に似せて作られた人のために与えられたものである。それなのに，ある下等な動物が示す程に，ある人々は十戒に注目しようとはしない。

神は，その子供である人間に，おのれの心と手で作りあげた偶像や偽りの神を愛し崇拝してはならないと戒められ，命じられた。神は言われた。

「わたしはあなたの神，主であって…あなたはわたしのほかに，なにもの

をも神としてはならない。

あなたは自分のために，刻んだ像を造ってはならない。上は天にあるもの下は地にあるもの，また地の下の水のなかにあるものの，どんな形をも造ってはならない。

それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。あなたの神，主であるわたしは，ねたむ神であるからわたしを憎むものには，父の罪を子に報いて，3，4代に及ぼし，わたしを愛し，わたしの戒めを守るものには，恵みを施して，千代に至るであろう。」（出エジプト20：2—6）

父親の皆さん，もし私たちが生ける神を愛さず，この世のものや楽しみを大いに愛し興味をもつなら，神は，神を憎むものには，父の罪を子に報いて3，4代に及ぼされると言われた。父親の生ける神に対する不敬の結果は子孫に及び，同様に，その愛と尊敬の結果も子孫に及ぶのである。

人が神を愛する以上に，偽りの神やこの世のものを愛し崇拝する時，1人に訪れる危険や害悪を，使徒パウロはローマの聖徒たちを戒めて次のように言っている。

「……彼らは神を知っていながら，神としてあがめず，感謝もせず，かえってその思いはむなしくなり，その無知な心は暗くなったからである。

彼らは自ら知者と称しながら，愚かになり」

「ゆえに，神は，彼らが心の欲情にかられ，自分のからだを互いにはずかしめて，汚すままに任せられた。

彼らは神の真理を変えて虚偽とし，創造者の代りに被造物を拝み，これに仕えたのである。」（ロマ1：21—22，24—25）

パウロはさらに続けて，人が作った偽りの教えを崇拝し，創造主よりも被造物を愛する者の生活に何が起こるかを述べている。

「…彼らは神を認めることを正しいとしなかったので，神は彼らを正しからぬ思いにわたし，なすべからざる事をなすに任せられた。すなわち，彼らは，あらゆる不義と悪と貪欲と悪意とにあふれ，ねたみと殺意と争いと詐欺と悪念とに満ち，またざん言する者，そしる者，神を憎む者，不遜な者，高慢な者，大言壮語する者，悪事をたくらむ者，親に逆らう者となり…。」（ロマ1：28—30）

パウロの時代にローマの多くの人々の間に存在したのと同じ罪悪が，今日も私たちの回りに満ち満ちている。多くの人が神を認めることをせず，親に逆らい，その結果罪を犯し悪事をなすよう正しからざる思いにわたされてしまっている。

サタンは許されて，偽りの神を拝み，真の神の声に聞き従おうとしないすべての人に力をふるっている。主はサタンの能力と影響力について次のような大切な知識を与えてくださった。「而して神はサタンと成れり，実にあらゆる偽りの父なる悪魔となりて人を欺きだまし，以てわが声に聴き従わぬすべての者を欲するままに虜となすなり。」（モーセ4：4）

神の声を知りそれに従う時に，霊的に成長し，神からの安らぎを得られるのである。

イエス・キリストは言われた。「永遠の命とは，唯一の，まことの神でいますあなたと，また，あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」

神を知りイエス・キリストを知ることは神聖な知識である。

主はまた命じられた。「あなたは，あなたの神，主の名を，みだりに唱えてはならない。主は，み名をみだりに唱えるものを，罰しないでは置かないであろう。」（出エジプト20：7）

イエス・キリストは天父のみ名をあがめるようにと教えておられる。「…天にいますわれらの父よ，御名があがめられますように。」（マタイ6：9）

デビッド・O・マッケイ大管長はかつてこう言われた。「どの家庭でも神のみ名を尊ぶことが大切にされなければならない。教会員の家庭にあっては決して神を汚す言葉が吐かれてはならない。……もし人の心に更に崇敬の念がわけば，罪と悲しみの余地は少なくなり，喜びと楽しみの力が増す。（「人自ら己れを知る」P.29）

ラスキンはこう書いている。「敬虔であることは，人のこの世の生活で最も崇高な状態である。敬虔は力を示す1つの印であり，不敬は確かに弱さを示すものである。聖なる物をあざける者は高揚されることはない。…」（ジョン・ラスキン，〔1819—1900〕英国の美術評論家，作家）

崇高さと気品は敬虔がもたらす実なのである。

主は自らその子供らに，安息日の大切さと神聖さについて勧告を与えて下さった。

「安息日を覚えて，これを聖とせよ。六日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをせよ。

七日目はあなたの神，主の安息であるから，なんのわざをもしてはならない。あなたもあなたのむすこ，娘，しもべ，はしため，家畜，またあなたの

門のうちにいる他国の人もそうである。

主は六日のうちに，天と地と海と，その中のすべてのものを造って，七日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた。」（出エジプト20：8—11）

主は安息日を祝福して聖なるものとされ，我々が，安息日を覚えてそれを清く保つよう求めておられる。安息日は霊的なことに思いをめぐらし，霊的に成長する日であり，聖徒らと会って聖餐にあずかる日であり，聖なる聖典に記録されている神のみ言葉を読む聖なる日である。

神が聖とされたものを敬わず，安息日を清く保つことに失敗する父親は，自分の子孫にその罪を及ぼすのである。神が聖とされたものを汚すことは罪である。安息日を清く保つことは，人の魂に清い力を与え，神と神の戒めへの愛が増すのである。

主はまた1つの戒めを与えられた。「あなたの父と母を敬え。これは，あなたの神，主が賜わる地で，あなたが長く生きるためである。」（出エジプト20：12）主は例外を与えてはおられない。父，母を敬うことは，あなた自身の誕生と生命を尊ぶことになる。戒めに従うことは，個人的な成長と永続するしあわせとをもたらしてくれる。

神は言われた。「あなたは殺してはならない。」（出エジプト20：13）私たちはあらゆる生き物を尊ばねばならない。ただ楽しみのために殺してはならない。この世のあらゆる生き物は神が造られ，この地に置かれたものである。

神は子供たちに命じられた。「あなたは姦淫してはならない。」（出エジプト20：14）神はこの神聖な律法に基づいて人を裁かれる。姦淫とは，合法的かつ正当に結婚した夫または妻以外の異性と性的関係をもつことである。

主は言われる。「姦淫をなして悔い改めざる者は捨てらるべし。

されど，姦淫をなしたる者誠心を以てこれを悔い改め再びなさざる時はこれを赦すべし。もしこれを再びする者は，赦さるることなくして捨てらるべきなり。」（教義と聖約42：24—26）私はこう加えたい。「捨てらるべき」とは末日聖徒イエス・キリスト教会からの破門という罰を伴うものであると。

使徒パウロは言っている。「まちがってはいけない。不品行な者，偶像を礼拝する者，姦淫をする者，男娼となる者。男色をする者……いずれも神の国をつぐことはない。」

不品行(私通)や同性愛を行なう者は悪魔にそそのかされているのであり，それは神の目にとっては悲しい罪なのである。不品行（私通）や姦淫は人が神のようになる可能性をうちこわし，下等な動物に近い状態をもたらす。

もう1つの神の戒めには「あなたは盗んではならない」（出エジプト20：15）とある。什分の一や他の捧げ物を神に正直に納める人は，一般に同僚にも正直な人である。主は言われる。「人は神の物を盗むことをするだろうか。」（マラキ3：8）私はそれにこう加える。「人は仲間のものを盗むことをするだろうか。」 不正直な心や顔つきには，堕落，退歩という烙印が押される。心中深く正直さを宿した人の容貌には平安としあわせが輝く。

主は言われる。「あなたは隣人について，偽証してはならない。」（出エジプト20：16）また「自分を愛するように，あなたの隣り人を愛せよ。」（マタイ19：19）と。すべての末日聖徒は，人の魂を救うために召されているのであって，けなしたり，とがめるために召されているのではい。隣人に偽証をたてることは，サタンにそそのかされている行為であり，心に不安，憎しみ不敬の念をきたす。

主は言われる。「あなたは隣人の家をむさぼってはならない。」（出エジプト20：17）

イエス・キリストは言われる。「汝ら互いに相愛するように心がけよ。貪るなかれ。而して福音の命ずる如く，互いに物を頒つようになれ。」（教義と聖約88：123） 神が与えたもうた十戒は，今なお，神のような生き方の根幹であり，神の王国の福音の根本をなすものである。家庭にあって主をあがめ，戒めを守る生き方は，この世の後に受ける栄光に関係がある。もしすべての人が，十戒にそって生きるなら，この地上には，自尊心，平和，愛，しあわせがあるであろう。

今日，すべての末日聖徒にとっての急務は神の王国の福音に生き，それを教えることである。聖徒の皆さん，あなたの光を輝かし，人があなたの生き方と良き業を見て，神をほめたたえるようにしようではないか。（マタイ5：16参照）

私は，神が生きてましまし，イエス・キリストは我々の救い主，仲保者であり，従うべき尊い模範であることをイエス・キリストのみ名によって証申し上げる。アーメン。

公園での朝食

ウェンデル・J・アシトン

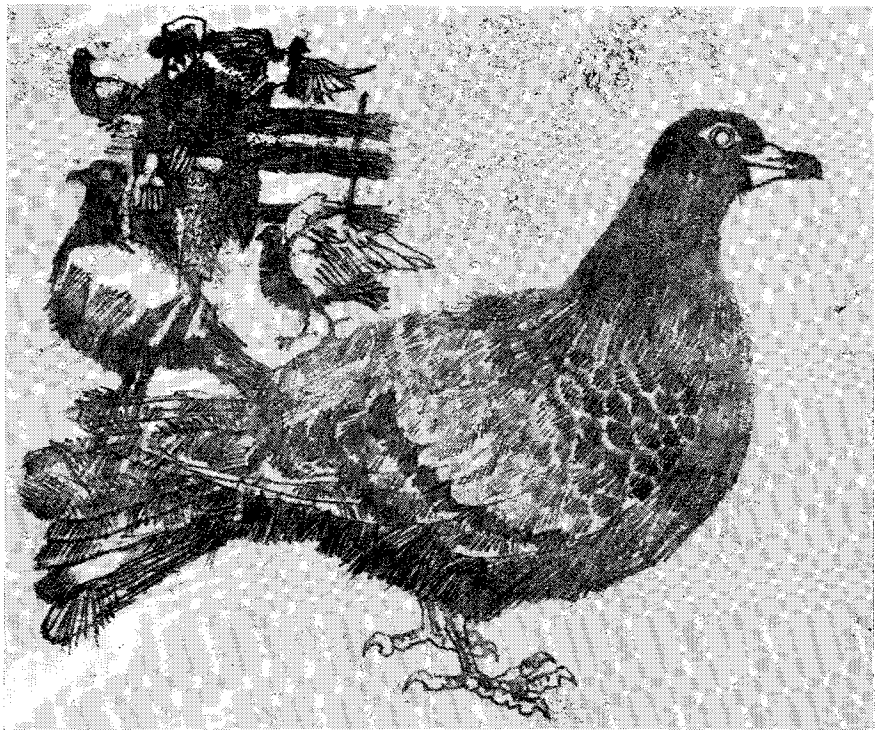
私は旅行で下町のホテルに泊まり，いつものように，朝のランニングをしようと思うと不自由さを感じる。

ところが，人口およそ800万のここブエノス・アイレスでは，そのような悩みはない。我々は「アメリカのパリ」と言われるこの都市の中心部にあるプラザホテルに泊まっている。

道をはさんでホテルの向かい側には約2万平方メートル程の円形の公園がある。ブエノス・アイレスは，タイルで屋根をふいた白い壁の家，広い並木道，大きな泉水，そして多くの彫像を誇りにしている町で，約150以上の公園があり，これもその1つである。

そこで明け方になると，私は緑色のテニス・シューズをひっかけ，茶色のズボンをはき，黄色のジャケットをまとって，この公園を丸く囲んでいる幅の広い歩道を走るのである。この歩道は，アルゼンチンの多くの歩道がそうであるように，コンクリートでできていて，約5センチ平方の小さな四角のもようがついている。そしてこうもりがさのように大きな木が道一杯におおいかぶさっている。公園のあちこちには彫像があり，芝生が植えられていて子供の遊び場もある。

私は走りながら，ある大きな木陰に1人の背の高い男の姿を見かけた。その男はしわだらけの灰色のコートを着，ぶかぶかのズボンをはいていた。首に色あせた緑のスカーフをまき，風雨にさらされた大きな古い帽子をかぶっていた。かたわらには，大きな，薄い青色をしたポリエチレンの買物包みをおいていた。



男は一枚の紙を手にしていて，その上には，大きな黄色のケーキかパンのようなものがのっていた。

私は4回公園のまわりを走り，そのたびごとにその大きな木陰にいる老人の前を走り過ぎたが，老人はケーキを小さくして，口にしていた。やがて老人は，小さくしたケーキのひときれをつまんでくだき，やや斜面になっている草地に立って，まわりに群がってくる鳩の群れにまいてやっていた。

寒い日であった。ブエノス・アイレスは冬であった。しかしそのもの静かな老人はただ1人そこに立ち，自分の朝食を公園の鳩と分け合っていたのである。私以外に彼を見かけた者はいなかったであろう。その老人はだれかに気づかれたいなどとは思っていなかった。

静かに分かち合って始める1日，それは何と素晴らしいことではなかろうか。

しわだらけの服を着たその老人は，静かに，もし我々が分かち合うという行為で1日を始めるなら，毎日がもっともっとしあわせになると語ってくれた。

自分がある人について耳にした良いことや，子供たちについて聞いた良いことを語ろうとだれかに電話をすること。

我々から手紙をもらうだろうなどとは期待していない宣教師や兵役にある人々へ手紙を書くこと。

庭から花をつんで朝の食卓を飾り，家族の朝食に楽しさを増してやること。

真の天父なる神に感謝をささげ，我々の喜びや関心を分かち合うこと。このように分かち合うことは毎朝の一部となる。

朝食で家族と素晴らしい経験や聖句を分かち合うこと。

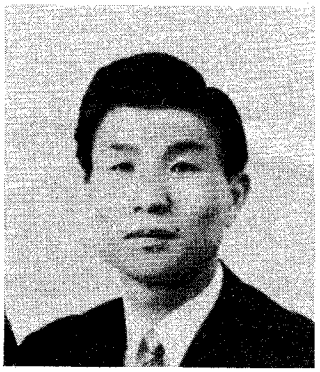
兄弟の靴をみがいたり，入れ物一杯に庭から新鮮ないちごやすももなどを摘んだりして，思いがけなく家族の者や隣人に何かをしてやること。

だれか知っている人に元気な便りを書き送ること。

朝露がまだばらの花をぬらし，霜がまだ草をぬらしている間に，息子や娘を呼んで一緒に朝の散歩をすること。

ブエノス・アイレスの公園の大きな木陰の下にいて，しわだらけの服を着たあの背の高い老人がしていたように公園で鳩と朝食を分け合うこと……。

分かち合うことは毎朝の大切な日課である。



贖い主の岩を基にしょう

日本西部伝道部長
渡　辺　　驩

私は１人の兄弟を知っています。彼は第２次大戦の折，学徒として出陣し，日本は神国であって，いかなることがあろうとも神は日本を守りたもうと信じていました。しかしこの確信は敗戦を通じて打ち砕かれ，今や何に価値を置くべきか全く混とんとした状態に置かれました。また人が一生懸命になりさえすれば，すなわち善といわれることをすれば必ず報われると信じ，彼はしゃにむに勉学にいそしみました。やがて帝大を卒業し，大企業に就職しました。けれども努力し，目的を果たしたにもかかわらず，彼の心はいっこうに安らぎをおぼえることがありませんでした。そして人の努力以上の何者かの存在を求め，あちらの宗教，こちらの宗教へとさ迷ったのです。そして1953年に福岡市内でモルモン教会の宣教師に会いました。その瞬間，ここには何かがあると感じ，研究を始めました。やがてみたまによりこの教会が真実であることの証を得，バプテスマを受けたのです。当時，九州地方には支部が１つしかありませんでした。再三会社より転勤の勧めがあったにもかかわらず彼は頑として福岡から離れることを拒否しました。たとえ，それが名誉と地位を遅くするものであったとしても。以来18年余り彼はこの真理につき従っています。今や神は彼を祝福したもうて，信仰においても社会的地位においてもゆるぎないものを与えられました。

彼は昨年初めて開かれた南部九州地方部大会（鹿児島）でこう証しています。「これはまさに画期的な出来事であります。18年前私がこの教会を知った時，支部はわずか１つしかありませんでした。けれども，現在４つの支部と13の伝道所を抱えたすばらしい神の地となりました。私はいつかこの日が来ることを知っていました。私はあらゆるものを投げ出してもこの道に従うならば，主は必ず祝福したもうことを信じていました。私は支部のない地へ行けば自分が神の前にどのようになるか想像もつきませんでした。けれども私はシオンにとどまることによって今大きな恵みを受けています。そして主の業がこの九州地方においてますます栄えるに違いないことを今感じています。

またこの業がその内部において充実し，やがて私の想像もつかないほどの発展を見るに違いないと感じています……。私は，18年前には心の中で小さく燃えていた光が，この道にしっかり取りついて離れないことにより，やがて大きくなり，これからも従順である限り日増しに大きくなって全き光を得ることを証します。」 ヒラマンは息子たちに，どのように日々を過ごしたらよいか教えています。

「さてわが子らよ。お前たちは神の御子でキリストである私らの贖い主の岩を基にしなくてはならないことを忘れるな。贖い主の岩を基にするならば，悪魔がその大風を吹かせて柱のように立つつむじ風をまき起すとき，また悪魔の雹と暴風雨とがお前らを打つとき，悪魔はお前らに打ち勝って不幸の淵と永遠の悲惨にお前たちをひき落す能力はない。なぜならば，お前らの立つ岩は堅固であって人がその上に立つと倒れることのできない基であるからである。」（ヒラマン５:12）

日本伝道部大会開かる

今年初の伝道部大会が去る5月13日，14日，アボ伝道部長の管理のもとに，東京第2ワード部で行なわれました。遠くいわき，新潟，長野，松本，浜松等14の支部と，日立，諏訪等6つの未来の支部から500余名の兄弟，姉妹，宣教師達が集まりました。

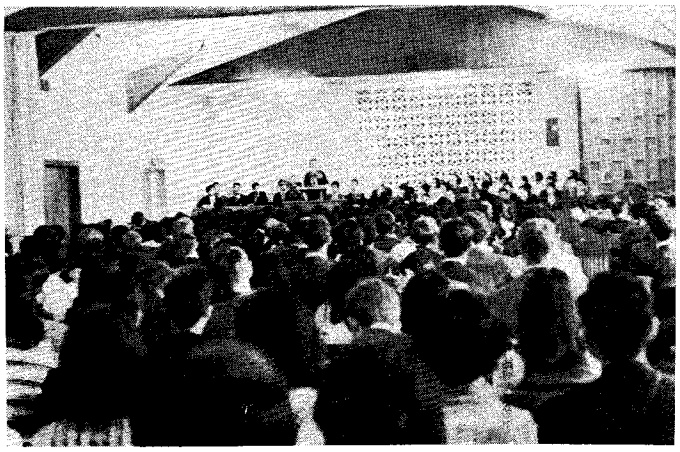
13日夜は，ゴールデングリーンボールで，日頃のMIAで学んだステップを実際にためしました。ちょっと恥ずかしがり屋や，壁の花が多かった感じ。でもみんな楽しいひとときを過ごし，ステーキ部の会員のお宅に泊めてもらいました。いつも伝道部の兄弟，姉妹を，暖かくお迎え下さるステーキ部の兄弟姉妹に，またワード部の建物と施設を提供して下さるワード部の会員の皆様に心から感謝しています。

日曜日は神権会と扶助協会が朝8時15分から行なわれました。神権会は「神権の回復とその意義」という題で，扶助協会と一般大会はニーファイ第一書3章7節の「私は主が命じたもうたことを行って行う……」のテーマのもとに，伝道部長会，地方部長，その他たくさんの兄弟姉妹の素晴らしい経験と証を聞きました。

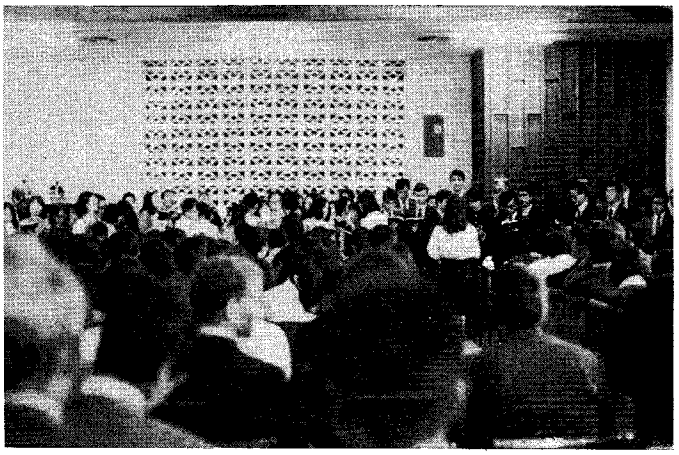
午後の大会は，アボ伝道部長の愛にあふれる心からのお話と証で終えました。伝道部長は，会員達を心から愛していること，支部の兄弟姉妹が教会に出席しない時に悲しく思うことを話され，そして，指導者を支持して，支部に帰ってもっとよく主に仕えるよう勧告して下さいました。

大会のあとは，伝道部補助組織役員達による指道者会がありました。またこの大会では7人の新しい長老が誕生し，セミナリープログラムがスタウト兄弟によって紹介されました。

この大会に集った兄弟姉妹達は，主が命じたもうことには，人がそれをなしとげるために，必ずその方法がそなえてあることに対する証と決心を新たにし，また10月の伝道部大会の時に逢うことを約束して，それぞれの帰途につきました。



アボ姉妹に熱心に耳を傾ける会員達



美しいコーラスグループ（静岡支部）

ユース・コンファレンス

ふるさとの大地に，槌音も高く，主の御国が着々と建設されつつありますことを共によろこびたいと思います。

この地において神の御業を果たすべく召された私たち若人が，昨年の感激も新たに再会して，多くを語り合い友情の絆を固くすることができるのは，ユース・コンファレンスの大きな意義の１つです。

神の王国の明日を築き荷なう私たちが今日，自らの手で創り運営するプログラム，ユース・コンファレンス！

これは，参加するひとりひとりの手のぬくもりと汗による〝手づくり〟の集会です。兄弟姉妹１人１人のよろこびや悩み，問題や期待を持ち寄って心おきなく交流し，実り多い集まりに仕上げていただきたいと思います。

春になると根雪が溶けて音高く流れ出すように，各支部伝道所のささやかな活動に，時折しのび込む凍てつくような孤独も根雪のような責任の重さも，溢れるばかりのよろこびとなって流れ出すに違いありません。

1，期　日　昭和47年８月11，12，13日
2，会　場　仙　台　市
3，主　題　私と私たちの新しい出発のために
4，参加費　8,000円（食費・宿泊費・仙台までの普通運賃・バス旅行を含む）
5，日　程

８月11日（金）
▶開会式と運動会（10時～14時）　於・宮城野原陸上競技場
▶レセプション（晩餐会）16時～17時30分
▶音楽祭（合唱祭，創作発表会）18時～20時30分
▶宿泊（全員合宿制）

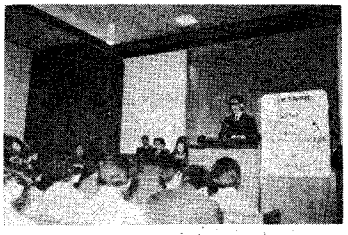
８月12日（土）
▶ワークショップ（分科会）５時30分～７時30分
議題＝①福千年の青写真，②リアホナモルモンと鉄の棒モルモン―信仰のあり方をめぐって―，③マイホーム型とマイチャーチ型―安息日を考える―，④モルモン党の選挙公約は？，⑤真のふるさとを訪ねて―系図旅行のすすめ―，⑥学歴偏重に挑戦する―モルモンにとって教育とは？―，⑦兄弟愛から恋愛へ，⑧青春の愛と孤独―失恋について語ろう―，⑨モルモンの職業観，⑩結婚の条件―何がなければならないか？　何があってはいけないか？―など……。
▶貸切バス旅行　９時～16時
①蔵王エコーラインコース
②平泉中尊寺コース
③山寺立石寺コース
④奥松島大鷹森コース
⑤金華山牡鹿コバルトラインコース
（補）松島，仙台名所めぐりコース
▶ダンスパーティ　18時～20時30分
（家族連れ，宣教師用にチャップリン映画を上映します）

８月13日（日）
▶神権会，聖餐式証詞会　９時～13時30分

北海道地方部指導者会開かる

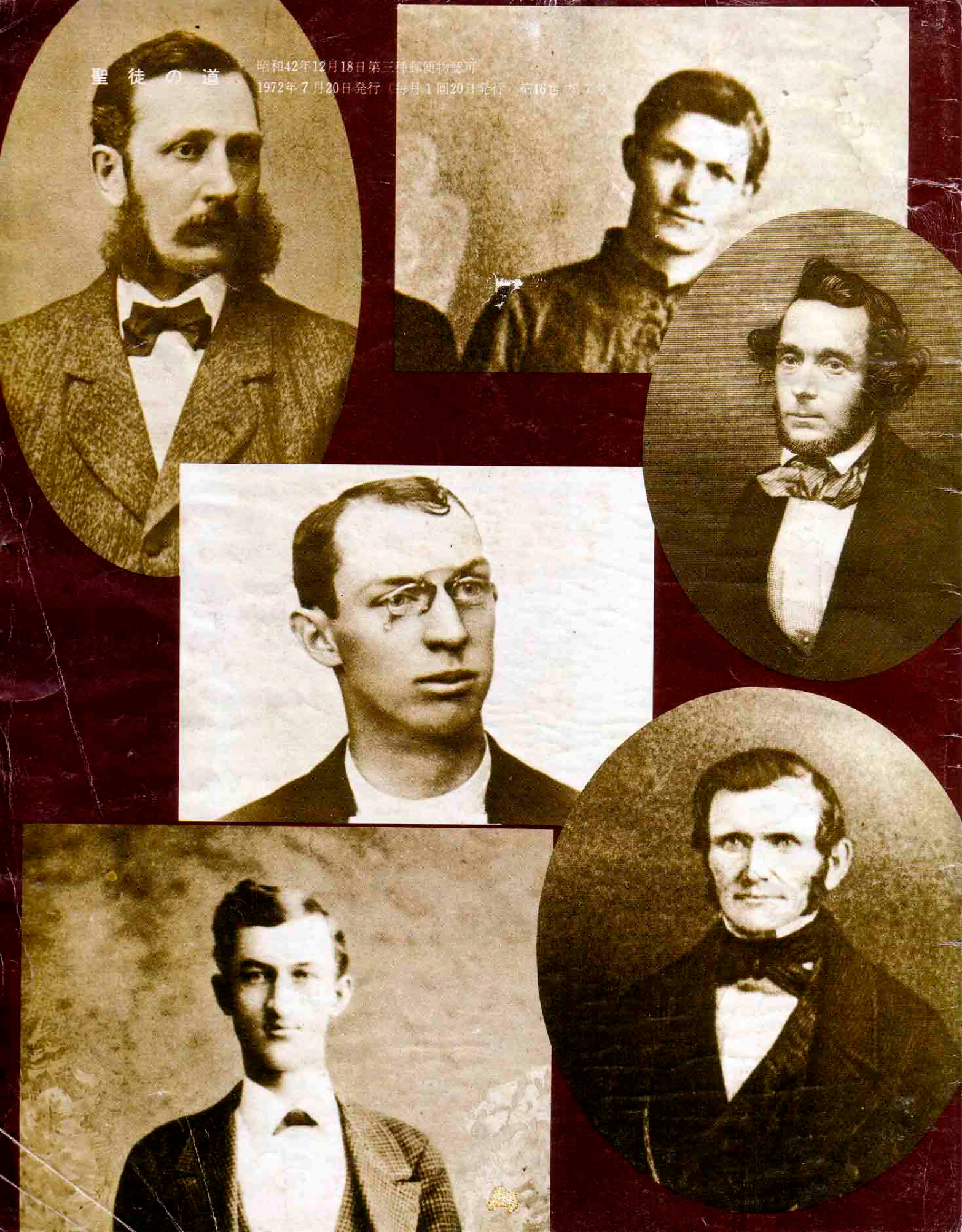
昨年に引き続き，２度目の北海道地方部指導者会が開かれました。

北海道地方部では，４つの支部のほかに道内の主要な都市に伝道所ができて発展していますが，地理的な面もあり，会員が地方部大会や特別集会のたびに札幌の地方部センターに集うことは大変です。それで年に４回の地方部大会を３回にし，春には地方部の指導者会をするようにしております。今年も４月29日の祭日を利用してこの会を行ない，遠く函館，釧路，北見等の伝道所から会員が集いました。前夜からの合宿に参加した兄弟姉妹達もあり，当日のプログラムは午前中が全体指導者会（地方部の目標，教師養成，伝道部からの指導）があり，午後からは各組織に別れて分科会が持たれました。



またこの指導者会のために東京ディストリビューション・センターから松下兄弟をお招きし，教材やテキストの活用法等についてお聞きしました。

北海道地方部長
平　野　勝　也

聖徒の道

昭和42年12月18日第三種郵便物認可
1972年7月20日発行（毎月1回20日発行）第16巻第7号